

滋賀県立大学地域共生センター

年報 2021



目次	1
1 地域共生センター年報 2021 発行にあたって	2
【特集】	3
特集 1 「彦根城」世界遺産登録に向けた取組と連携した事業	
1 彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	
2 社会人オンライン公開講座	
3 サテライト講座	
特集 2 起業家的人材育成を目指して：ソーシャル・アントレプレナーコースのパワーアップ	
2 事業紹介	
2-1 事業一覧	
2-1-1 地域課題の解決と地域共生等に関する教育および研究	8
2-1-2 地域における人材育成等	9
2-1-3 地域との連携および交流	9
2-1-4 生涯学習・リカレント教育	9
2-1-5 他大学等の連携	9
2-2 地域教育プログラム	
2-2-1 概要	10
2-2-2 関連科目の履修登録状況	11
2-2-3 地域共生論	11
2-2-4 地域基礎科目	11
2-2-5 地域志向科目	12
2-2-6 近江楽士（地域学）副専攻	12
2-2-7 近江環人地域再生学座	14
2-2-8 近江楽座	15
2-3 SDGs 地域化拠点の取組	
2-3-1 SDGs に関する取組の全体像	20
2-3-2 キャンパス SDGs びわ湖大会 2021	21
2-3-3 教育、研究、地域への波及	22
2-4 コロナ禍の学生への食糧支援の取組	
2-4-1 概要	24
2-4-2 支援の経緯	24
2-5 地域連携	
2-5-1 滋賀県立大学地域連携相談窓口の相談対応	27
2-5-2 県内自治体等との連携	28
2-6 生涯学習	
2-6-1 公開講座	29
2-6-2 公開講義	29
2-6-3 リカレント教育	29
2-7 他大学等との連携	
2-7-1 環びわ湖大学・地域コンソーシアム	30
2-7-2 大学サテライト・プラザ彦根	30
2-7-3 びわ湖東北部地域連携協議会	30
3 スタッフ紹介	
3-1 地域共生センターの体制等	32
3-2 教職員の活動	33
3-3 2022 年度の教職員メッセージ	36

I 地域共生センター年報 2021 の発行にあたって

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響が継続してスタートしましたが、お陰様で滋賀県立大学では感染防止対策を徹底した上で対面授業ができ、キャンパスに学生の賑わいが戻ってきました。しかしながら課外活動や地域での取組、学生生活を支えるバイトなど学生の皆さんのキャンパスライフはまだまだ制約もあり、以前のような状態には戻っていないのが現状でした。

そのような中、一般社団法人近江日野交流ネットワークの皆様から本学学生へのために一年を通して様々なご支援を頂いたことに改めて感謝申し上げます。2 回にわたり農家の皆様が本学までお越しただいて、県大生のためにと丹精込めて栽培された近江米やジャガイモ、大根や蕪、玉ねぎなどに新鮮なお野菜や生活用品などを、「頑張ってや」との激励とともに多くの学生に手渡し頂きました。

また、地元野菜の収穫体験も夏と冬の 2 回企画して頂き、学生だけでなく教職員家族も参加して、普段はできない野菜の収穫や農家の皆様との交流など、コロナ禍で落ち着かない生活の中でホッとする貴重な時間を過ごさせていただきました。

日野町の皆様だけでなく、地元の東びわこ農業協同組合の皆様からもたくさんの暖かなご支援を頂きました。本当に本学の学生は、地域の皆様に支えられて幸せだと感じています。

1995 年の開学以来、地域貢献を大きなミッションとして教育、研究、地域活動を進めて参りましたが、皆様からの心温まる応援を頂き感謝するとともに、本学への期待も感じています。これからも持続可能な地域社会づくり、幸せに皆さんが住み続けたいと思うような地域づくりに貢献してまいりたいと考えています。

地域共生センターでは各学部の協力も得て全ての学生に「地域教育プログラム」の学びを提供しています

が、今後も地域の人々や企業、団体の皆様とより密接に連携させて頂き地域課題の解決や地域企業の持続的発展に活躍する人材育成に努めます。

2021 年度は近江楽士（地域学）副専攻のソーシャル・アントレプレナーコースを改編し、より起業家精神を持った人材を育成しようと教育プログラムを見直しました。地域課題を解決する起業や既存の企業の中で第 2 創業を生み出す人材を育成し、地域の活性化につなげたいと考えています。

これからも滋賀県立大学は地域課題の解決、地域の活性化に貢献してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和 5 年 2 月

地域共生センター

センター長 高橋滝治郎

【特集】

特集Ⅰ 「彦根城」世界遺産登録に向けた取組と連携した事業

彦根市と市民や団体は、近隣の市町や関係団体、さらに滋賀県と密接に連携して彦根城（およびその関連遺産）の世界遺産登録に向けた取組を推進している。平成4年に世界遺産暫定リストに登録され、それ以降様々な取り組みが進められ、令和以降登録に向けた動きがより活発化し令和元年度には彦根商工会議所から滋賀県立大学に4年間の寄附講義が提供された。

地域貢献のリーディングモデルを目指す本学としても、世界遺産登録へのこれらの活動と連携して、持続可能な魅力ある地域づくりのために、世界遺産に関する市民意識の醸成、まちづくり人材の育成という観点から講義や生涯学習を通じて取組を進めた。

Ⅰ 彦根商工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」

（Ⅰ）講義の概要

彦根商工会議所からの寄附講義として令和元年度から実施している「世界遺産のまちづくり・ひとづくり」は、令和3年度は①歴史・文化を生かしたまちづくりを担う人材の育成、②まちづくりに向けたネットワーク・プラットフォームづくり、③まちづくりの機運および市民意識の醸成、を目的に次のようなスケジュールで実施した。（2時間連続講義×全8日間・16回）



世界遺産登録を目指す彦根城

【講義テーマⅠ 世界遺産とは何か。】

タイトル・テーマ	ゲスト講師・パートナー
世界遺産とは何か——世界遺産から何を学び、どう活かすか	岡田保良氏（国士舘大学イラク古代文化研究所教授・イコモス国内委員会委員長）
世界遺産は誰のもの？——文化財保存と文化資源活用の動向	鈴木地平氏（文化庁文化資源活用課文化財調査官）
世界遺産の保護とその危機——文化資源の持続可能な保護を目指して	濱崎一志氏（滋賀県立大学元教授・彦根景観フォーラム）
世界遺産と現代都市——新旧共存のための戦略と制度	白井宏昌氏（滋賀県立大学環境科学部教授）
フィールドワーク——彦根城	彦根ボランティアガイド協会
世界のなかの彦根と彦根城——彦根における取り組みの現状と課題	鈴木達也氏（彦根城世界遺産登録推進協議会・滋賀県文化財保護課）、小林隆氏（彦根市彦根城世界遺産登録推進室）
ワークショップ：「まち・ひと・しごと三方よし」の世界遺産都市を目指して①	上田洋平（滋賀県立大学地域共生センター講師）

【講義テーマ2 世界遺産のまちづくり・ひとづくり】

タイトル・テーマ	ゲスト講師・パートナー
世界遺産と企業活動——まちづくりに果たす企業の役割とその矜持（しごと）	中村哲郎氏（島根県太田市 中村ブレイス株式会社専務取締役）
まちの宝を次世代につなぐ——世界遺産と人材育成（ひと）	大高広和氏（福岡県人づくり・県民生活部文化振興課 九州国立博物館・世界遺産室世界遺産班主任技師）
世界遺産のまちづくり——官民一体で守り・活かす世界遺産（まち）	岡田康博氏（青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室世界文化遺産登録専門監）
ワークショップ:「まち・ひと・しごと三方よし」の世界遺産都市を目指して②	上田洋平（滋賀県立大学地域共生センター講師）

【講義テーマ3 ワークショップ「世界遺産・彦根のまちづくり」】

タイトル・テーマ	ゲスト講師・パートナー
合同学習発表会＆ワークショップ:わかちあい学びあう私のまちの宝もの 1. 大学生からの発表「世界遺産って何だろう?」「彦根城を世界遺産に!」 2. 小学生からの発表 3. 交流	彦根市立城西小学校のみなさん
ワークショップ:わたしからはじまる世界遺産のまちづくり	彦根商工会議所／彦根城世界遺産登録推進協議会／彦根城世界遺産登録推進室

(2) 受講学生の感想(学生による学びのまとめ:抜粋)

①世界遺産のまちづくり・人づくりとは

- ・まちと人、人と人、まちとまちをつなぎ、豊かにすることである
- ・地域の人々がその価値を理解し、みんなが主体的に遺産およびまち全体を保護していくこと
- ・地域住民・行政・民間団体が一丸となって、世界遺産

について知り、伝え、広げていくこと

- ・行政に任せきりではなく、自分たちも主体となり遺産を守り、共生していくこと
- ・世界遺産とまちが共に輝くこと
- ・人々の生活と心を豊かにするもの／世界遺産を守り伝承する人づくりを通してまちをいきいきとさせること

②この講義を受講して

・彦根という一地域について深く考えること・知ることができ、有意義な学びを得られたと思う。授業は終わりであるが、今後も彦根城、彦根のまちに注目していきたい。

・彦根城の魅力が多くの人に伝わり世界遺産として保存されることを楽しみにしたい。

・世界遺産が世界遺産である理由がただ単に綺麗であるとか、歴史があるというだけでなくもっと深い所に価値があることに気づきました。

・彦根市民として、彦根城が世界遺産になったら、世界遺産になるには、について真剣に向き合って考えることができる授業だった。

・彦根城に実際に行き、ボランティアの方の話を聞くことで、彦根城が世界遺産に値する価値があることが改めて分かったので良い機会であった。

・彦根城が世界遺産になれるように清掃活動など自分のできることを実践して少しでも協力していきたいと思った。2024年がとても楽しみだと思った。

・世界遺産にする・あり続ける、ということや世界遺産を活かしたまちづくりなどには課題があり多くの検討事項が存在することを知った。これからは自分も他人事として捉えるのではなく、自ら積極的に進んでその遺産のこと、町のことを学び活動に参加していきたいと思う。

・小学生との交流では、地元が彦根だからこそ話せる話を聞くことができて本当に勉強になった。

・小学生との交流が最も楽しかった。1回生のうちにこのような交流体験ができてよかった。また大学生と小学生とで交流する機会があればぜひ地域づくりの一環として参加したい。

（３）講義の成果と課題

講義については関係先の協力、とりわけ彦根市文化財課世界遺産登録推進室や彦根城世界遺産登録推進協議会、滋賀県文化財保護課に講義全般にわたって協力いただいた。また、彦根ボランティアガイド協会には、現地でのガイドや彦根観光の最前線からの意見や視点を提供いただいた。加えて、彦根市立城西小学校に協力いただき、大学生と小学生による学習成果交換・交流会を実施することができた。

当科目は、世界遺産について単に教養的に学ぶのではなく、学生自身が市民の一人として、彦根城の世界遺産登録の当事者としての自覚を持ち、積極的・具体的に登録に向けた機運の醸成やさまざまな活動に関わる人材となることを期待するものである。受講した学生の考えや感想を見ると、彦根城や世界遺産やさらにはその遺産を活用したまちづくりについての認識を深めるだけでなく、自ら様々な活動に協力や参加したいというものもあり、彦根のまちで、歴史的・文化的遺産を守り活きたなりわいや事業に従事するきっかけに一定繋がったものと考えているが、今後も引き続き様々な当事者と連携しながら、履修後のステップ、育成人材が活躍できる場の確保・提供も視野にいたれたプログラム運営に努める。

２ 社会人オンライン公開講座

本学人間文化学部地域文化学科 金宇大准教授による「世界遺産の理念と彦根城の取り組み」をテーマにした令和３年度社会人オンライン公開講座を「びわ湖東北部地域連携協議会」との共催で実施した。



vol. 1 「世界遺産に関する基礎知識」

vol. 2 「世界遺産誕生のプロセスと理念」

vol. 3 「世界遺産登録を目指す彦根城の取り組み」

の３部構成とし、令和３年１１月から令和４年３月までの約４ヶ月間、希望者にYouTubeで限定配信した。

彦根城の世界遺産登録を目指して地元彦根市をはじめ滋賀県や地元企業等が連携して取り組みを進めている時期でもあり、多くの方々の関心を集めた。２月１０日付の毎日新聞滋賀版には「世界遺産へ意識を高め」と題した大きな記事が掲載され、この記事を見た方からの問い合わせや視聴申込みもあった。最終的には、この講座の視聴回数は３部合計で、のべ７５４回に達した。

視聴された方からは「まず vol. 1 と vol. 2 で世界遺産についての基礎知識や理念を丁寧に解説していただいた後、vol. 3 において世界遺産登録を目指す彦根城の取り組みを説明していただいたことで非常に理解を深めることができた」、「世界遺産登録がゴールではなく、人々が文化に親しむことこそ大切であることが分かった」というような感想が多く寄せられた。視聴後のアンケートでは、約 97% の方が「満足した」、100% の方が「再度の受講を希望する」と答えられなど大変好評だった。

３ サテライト特別講演会

サテライト・プラザ彦根の事業として、令和４年２月 25 日「成熟した世界遺産を目指して」をテーマに、文化庁の文化資源活用課文化遺産国際協力室文化財調査官の鈴木地平氏を迎え特別講演会を本学が企画・実施した。なおサテライト・プラザ彦根は令和４年３月末日をもって閉鎖となるため最終講演会となった。この講演会は感染拡大防止のため会場参加者を定員の半分以下の 27 名とした。

講演内容は、まず①世界遺産とは何だろう？という私達の身近な疑問から始まった。「世界遺産」と言う言葉は知名度に比して中身が知られていない制度である事が説明され、会場の参加者からは共感が得られた。また世界遺産になる為には、年 1 回開催される世界遺産委員会で登録の可否が決定されること、鈴木氏も実際に参加

されたという世界遺産委員会の舞台裏について、奮闘された仕事ぶりを聞く事ができた。



次に②世界遺産にまつわる近ごろのエトセトラについて、日本全国の、時には世界の事例を用いて説明があった。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産については、日本側とイコモス側の見解の相違(difference of opinions)があった事が説明された。また百舌鳥・古市古墳群については地域コミュニティがどのように関わっているかが重要視され、イコモスよりポジティブな評価があった事が説明された。

最後に③未来の世界遺産を目指して。彦根城の世界遺産登録をなぜいま目指すのか参加者と考える事となった。彦根城の世界遺産としての価値はわかりやすく説明できているか。彦根城は、地元で愛される遺産となっているか。彦根城が世界遺産となることで、地元はHappyになれるのか。様々な意見があり活発な議論がなされた。

またこの講演会を再度拝聴したいとの意見があり、YouTube での追加配信も行った。再生回数は 97 回となった。

特集 2 起業家的人材育成を目指し、 ソーシャル・アントレプレナー (SE) コース をパワーアップ

Ⅰ SE コース設置経緯

近江楽士（地域学）副専攻ソーシャル・アントレプレナー (SE) コースは平成 27 年度に文部科学省事業 (COC+) の採択を受け編成したもので、COC+の事業目的である「若者の地元定着」を果たすための教育プログラムであった。

学生はなぜ地元定着しないか？の学生への質問に、多くの学生は「地元には就職する企業が無い」「中小企業は大企業から言われたことをやるだけでしょう（面白い仕事とは思えない）」などの反応があった。SE コースはこのような学生と企業の情報の非対称性を解くために、「地元で活躍する経営者や起業者の姿を見せる（地域社会とキャリア創成、のちにコミュニティとライフデザインに名称変更）」「経営に興味を持ってもらう（経営学序論、のちに MBA 入門に名称変更）」「地元経営者と学生が語り合う場（地域企業講座）」「地域におけるコミュニティ・ビジネスの取組実践（地域デザイン D）」の 4 つの講座を設置した。学生が、これらの講座を連続して受講することで、「若者の地元定着の阻害要因」を取り除き、地元企業にも興味を持ち就職や創業・起業も考える若者が増えていくのではないかと仮説を持った。

SE コースの成果としては、期間中にこのコースを修了し SE の称号を得た 8 名の内、大学院に進学したものを除き 7 名はすべて県内に定着した。サンプル数が少数なので、効果の測定としては十分とは言えないものの、一定の効果は認めてもよいと思われる。

令和元年度で COC+事業は終了したが、SE コースは「近江楽士副専攻」として継続されることになった。

2 実践的起業家教育のための SE コースの再編

大きく変動する現代社会においては社会課題をビジネスで解決する起業家的人材が求められること等を踏まえ、令和3年度から新たに実践的な起業家教育を強化した SE コースをスタートさせた。

起業家教育に内容を合わせるように SE コースの講座の内容と名称変更を行った。「ソーシャル・ビジネス概論」を「ソーシャル・ビジネス概論」に、「地域企業講座」を「ビジネス・プランニング」に「地域デザインD」の名称はそのままにして、講座の内容は実社会で事業化プロセスを経験することにした。

SE コースの特徴としては①グループワークを中心としたアクティブラーニングの学びであること。②地元経営者や産業支援機関のサポートを中心に、地元と企業の協力を得て運営していること③教材の多くは社会で現実に起き得る現象を取り扱っていることとしている。

起業は知識習得のみならず実践を伴うことで理解が深まるために、できるだけ社会人、特に企業経営者などとの接触の中で培われるものが多い。

令和3年度は SE コースの受講生の内2名が起業準備に入っている。

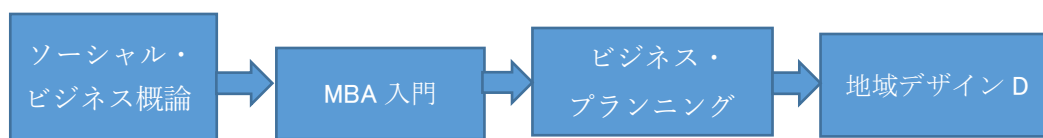


図1: SE コース（履修モデル）

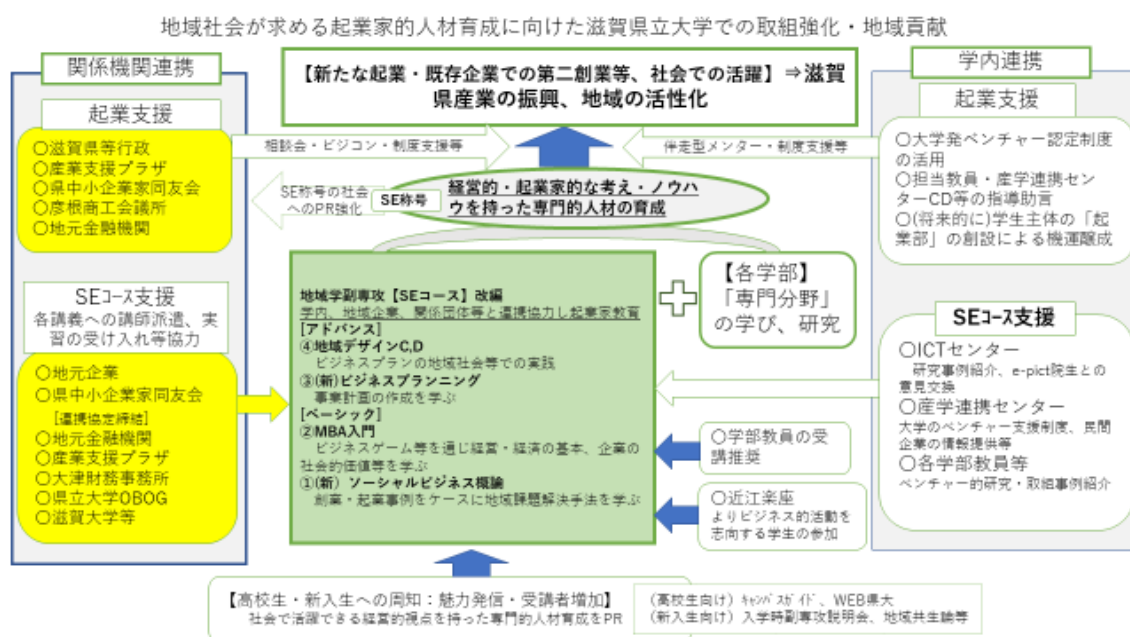


図2: SE コースと学内外との連携図

2 事業紹介

2-1 事業一覧

2-1-1 地域課題の解決と地域共生等に関する教育および研究

1. 地域教育プログラム

(1) 地域教育プログラム（基礎）

地域教育プログラムは、地域での実践を通して現実
に生起する諸問題に創造的に取り組み、変革する能力
と態度を養うことを目的にしている。「基礎」では 1
年次の全学部学生約 600 人が学部の枠を超えてグルー
プワークを通じ一緒に学ぶ「地域共生論」、選択科目の
「地域コミュニケーション論」をはじめとする地域基
礎科目で基礎的な能力を養う。

(2) 近江楽士（地域学）副専攻

地域教育プログラムの「展開」「応用」に位置付ける
全学・全学科対象の未来志向の学びのプログラム。実
社会に必要なノウハウを地域から学び、主体的に考え、
行動し、課題を解決するための学びを提供する。

コミュニティ・ネットワーク（CN）コースは、地
域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域
再生に向けた取組をデザインするネットワーク力を
身に付ける。

ソーシャル・アントレプレナー（SE）コースは、起
業家的精神をもって起業や地元企業等でリーダーシ
ップを発揮する起業力を身につける。

この副専攻を修了し所属学科の卒業要件を満たす
ことで「近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）」、
「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）」の称
号が付与される。

(3) 近江環人地域再生学座

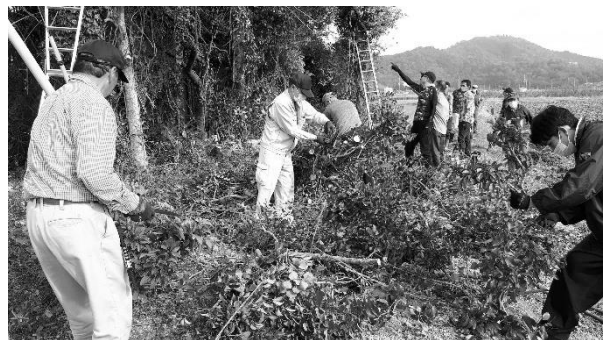
本学の大学院生や社会人を対象に、地域再生のリ
ーダーとなる資質を有した人材「近江環人（コミュ
ニティ・アーキテクト）」を育成するもので、研究科
横断による枠組みで地域再生や地域活性化のため

の必要な知識と技能を総合的・体系的に習得できる
副専攻カリキュラム。

なお、学座修了生を中心に結成された特定非営利
活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク
（NPO 法人環人ネット）が、地域での活動連携や大
学とのつなぎ役などで大きな役割を果たしていた
だいている。

(4) 近江楽座

地域貢献を目的とする学生主体の地域活動を全
学的に支援（活動助成・コンサルティング・情報発
信と共有）する教育プログラム。平成 16 年度に文
部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム
（現代 GP）」事業として実施し、平成 19 年度からは
本学の独自予算で継続している。事業の目標として
は、①地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の
活性化に向けて共に行動する、②学生が地域の方々
と一緒に行動することにより、学内だけでは学べな
いことを体験する、③大学と地域が共同してよりよ
い地域づくり・人づくりにつながる仕組みをつくる、
の 3 つがある。毎年 20 を超えるプロジェクトがま
ちづくり、健康福祉医療、環境保全、農業振興、被
災地支援など様々な分野で、県内外、海外までもフ
ィールドにして活動を続けている。



かみおかべ古民家活用計画：地域の清掃活動に参加

2. SDGs 達成に向けての取組

世界共通の目標である SDGs に関しては「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」大学として、SDGs の地域化拠点を目指して平成 30 年に滋賀県立大学 SDGs 宣言をした。

主な取組は、持続可能な地域社会づくりに貢献する人づくりを目指す前記 1 に記載の様々な地域教育プログラムのほか、キャンパス SDGs びわ湖大会、ソーシャルシネマダイアログの手法による SDGs 連続講座、出前講座など地域の人材育成の事業などにも取り組んでいる。

3. 地域づくり等調査研究

本学の知的資源を生かし、自治体、NPO、経済団体等と連携し受託研究を実施している。

2-1-2 地域における人材育成等

前記 2-1-1 の 1 「地域教育プログラム」における近江環地域再生学座によるまちづくりの担い手育成の取組、前記 2-1-1 の 2 「SDGs 達成に向けての取組」に記載の地域において SDGs の視点も持って活躍する人材育成のための連続講座、出前講座などの事業を実施している。

2-1-3 地域との連携および交流

1. 地域連携相談窓口の設置

平成 30 年度より地域共生センターに地域連携相談窓口を設けて、県や各市町、関係団体等からの大学との連携相談に一元的に対応し学内各学部との調整等に当たっている。

○地域連携窓口の連絡先

滋賀県立大学地域共生センター

TEL : 0749-28-9851 FAX : 0749-28-0220

e-mail : chiiki_koken@office.usp.ac.jp

2. 市町等との包括連携協定

「地域貢献」を取組の大きな柱とする本学として、県内各市町と地域の課題や特性等を踏まえた具体的

な連携・協力関係や体制を明確にし、組織的な連携を推進するため包括連携協定の締結を進め、随時意見交換を行っている。また、関係団体とも連携協定を結び、取組を推進している。

2-1-4 生涯学習、リカレント教育

人生 100 年時代と言われ地域住民の生涯学習や、現役世代のリカレント教育など多様なニーズに対応することも本学の使命である。①春期公開講座、②社会人専門講座、③公開講義など、地域に貢献する本学として、社会情勢の動きや受講生の声を踏まえながら関係教員の協力を得て本学の有する知的資源をもとにこれら生涯学習支援の取組の充実を図っている。また、現役世代を対象としたリカレント教育についても関係団体との検討を進めている。

2-1-5 他大学等の連携

1. 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内 14 大学と県、市町、関係団体で構成される環びわ湖大学・地域コンソーシアムの大学地域連携事業に、本学学生の参加を呼び掛けながら取組を進めている。

2. 大学サテライト・プラザ彦根

彦根市内の 3 大学、株式会社平和堂、彦根商工会議所、彦根市が協働で運営し、単位互換講義の実施、講演会などを実施している。

3. びわ湖東北部地域連携協議会

びわ湖東北部地域の 5 大学、県、3 市、2 商工会議所、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの連携によって、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に向け各種事業に取り組んでいる。

2-2 地域教育プログラム

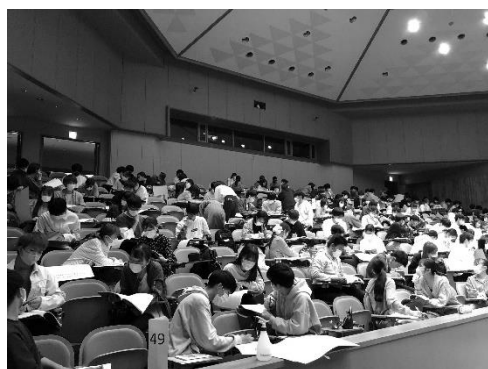
2-2-1 概要

これからの時代を生きる若い世代には、これまでの仕組みの延長線上に自らの能力を磨くだけでなく、変化する時代を生き抜き、世界共通の目標であるSDGsの達成のためにも持続可能な社会の創造を担う能力と資質を養うことが求められている。本学では、この課題に応えるためこれまでの専門性を身につけ俯瞰的に物事を見る能力を養うことに加えて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」の3つの力から養う【未来志向の変革力】を身につけた人材を育成するための地域教育プログラムを実施している。

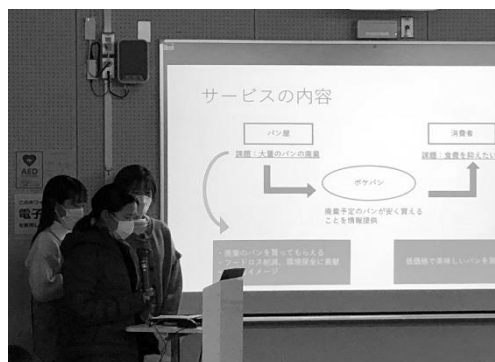
このプログラムのカリキュラムマップは次のとおりで、全学必修の地域共生論や地域基礎科目からなる【基礎】、近江楽士副専攻科目や学部学科での地域志向科目からなる【展開】、そして具体的な地域でのフィールドワークなどを主体とした地域デザインA~Dの【応用】で構成されている。

また、学生主体の地域活動である近江楽座も学内では学べないことを地域で体験する教育プログラムとして位置づけている。

学習・教育目標		コース別	授業科目名											
			1年			2年			3年			4年		
			前期	地域活動 実践ターム※1	後期	前期	地域活動 実践ターム	後期	前期	地域活動 実践ターム	後期	前期	地域活動 実践ターム	後期
卒業論文・制作											各学部各学科での卒業論文・卒業制作			
インターンシップ								中期 インターンシップ						
応用	近江楽士(地域学) 副専攻	コース共通						地域デザインA、B、C、D※2						
展開	地域志向 専門科目				地域志向専門科目 (各学部各学科の専門科目であり、副専攻要件には含まれません)									
	近江楽士 (地域学) 副専攻	ソーシャル・ アントレプレナー(SE) コミュニティ・ ネットワーク(CN)		ソーシャル・ ビジネス概論	MBA入門		ビジネス・ プランニング							
	地域基礎科目 (兼 副専攻必修)		地域診断法	システム 思考法		問題解決 デザイン論								
基礎	地域 基礎科目		ソーシャル・ビジネス概論 地域診断法※3											
			地域コミュニ ケーション論											
		地域課題科目(群)												
		地域共生論												
学生主体の地域活動														



1 年次全学必修「地域共生論」グループワーク風景



「ビジネス・プランニング」での成果発表

2-2-2 関連科目の履修登録状況

地域教育プログラムの地域基礎科目、近江楽士（地域学）副専攻科目の開講科目および履修登録状況は次のとおり。

○ 地域教育プログラムの履修登録状況

科目名	履修登録者数	
	令和2年度	令和3年度
地域共生論	633	649
地域コミュニケーション論	62	80
近江の歴史と文化	15*	9*
地域社会福祉論	137	119
地域づくり人材論	155	130
びわこ環境行政論	107	91
多文化共生論	不開講	92
地域産業・企業から学ぶ社長講義	155	133
SDGs と滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～	45	53
近江の美	不開講	182
世界遺産のまちづくり・人づくり	17	12
地域診断法	81	65
システム思考法	24	21
問題解決デザイン論	22	21
R2 コミュニティとライフデザイン R3 ソーシャル・ビジネス概論	14	34
MBA 入門	27	27
R2 地域企業講座 R3 ビジネス・プランニング	24	16
地域デザインA	47	47
地域デザインB	3	3
地域デザインC	3	3
地域デザインD	9	0

※近江と歴史と文化は 2020 年度入学生より人間学科目に変更のため、2019 年度以前入学生の履修登録者数。

2-2-3 地域共生論

「地域共生論」は、各学部から提供されるテーマをもとに、地域共生の意義を理解し自ら率先して地域における活動等を実践することの大切さを学ぶとともに、SDGs の視点も交えて考え、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力向上を目指す 1 年次前期の全学生必修科目である。600 名余の受講生を学部のもたがるグループに編成し、ディスカッションやポスター作成、発表などのアクティブラーニングを実施するのが本授業の特徴となっている。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底した中で対面形式の授業を開講できた。教室内の密を避けるため受講生を2教室に分けて、講義を担当する教員は別室から Zoom を使って各教室へライブ配信した。感染予防のため自宅受講を希望する学生にはオンライン受講も可能とし、配信内容を録画することで欠席者へのオンデマンド受講にも対応できた。対面とオンラインを併用することで、音声環境に不具合が生じるなど今後の課題は残ったものの、コロナ禍で奪われていたグループワークを通じた学びの場を実現する、新たな手法を確立することができた。

2-2-4 地域基礎科目

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群で、全学共通の科目であり、全学部生は前記 2-2-3 の必修科目「地域共生論」のほか、選択必修科目から 1 科目以上選択必修する必要がある。

○ 地域基礎科目（選択必修科目）

科目	講義の主な内容
地域コミュニケーション論	産官学様々な立場や現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、地域社会で重要視されるコミュニケーションの基礎体力を養う
地域社会福祉論	少子高齢化や社会保障制度の行きづまり、孤独死や自殺の増加、子どもの貧困と格差社会などの現状を見つめどんな共通認識で何が必要か考察する。
地域づくり人材論	地域の活性化を促す人材について、実際に各分野で活躍している人々を教室に招き、その存在や体験に触れながら学ぶ。
びわこ環境行政論	滋賀県の各分野の政策立案にかかわる行政担当者の講義を通じて、地域環境政策の課題を学び、琵琶湖という環境資産をもつ地域の持続可能な発展への政策とその実施について考える。
多文化共生論	教育や医療、行政などの各現場で多文化共生にとりくんでいる方をゲストスピーカーに招きながら、多文化共生の地域づくりにおける現状と課題について学び考える。
地域産業・企業から学ぶ社長講義	滋賀県の代表企業等のトップに産業界ニーズ、求める人材、学生に期待される能力などを語って頂き、滋賀県の産業・経済の特徴や抱える課題などを学ぶ。
SDGs と滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～	近江のいとなみを事例に様々なゲストと議論し、SDGs の考え方に照らしローカルな実践・課題とグローバルなそれらとがどう関わり、その関りの中でどんな未来（グローバル・イノベーション）が実現できるのか導き出す。
近江の美	近江には豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が集い技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどう醸成されたかを振り返り、最前線の職人、企業家、編集者、デザイナーなどと教員との対談で美意識を深める。
世界遺産のまちづくり・人づくり （彦根商工会議所寄附講義）	全国各地の世界遺産と人と状況をゲストに報告頂きケースメソッドや彦根城の世界遺産登録に向けた産官民の取り組みに関するワークショップ、まちづくり事業の提案等に取り組む。
地域診断法 副専攻科目（CN 必修）	日々求められる判断を行う際の物事の見方を修得し物事をうわべだけでなく分解・再構築してその本質的な特徴を見出す手法を「地域」をテーマとした「地域診断法」「エコロジカルプランニング」という手法を通じて身につける。
ソーシャル・ビジネス概論 副専攻科目（SE 必修）	社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネス(SB)やコミュニティ・ビジネス(CB)の理念を先駆者から学び代表事例を学習する。さらにSB、CB を実践するための基礎的な知識や事例研究からそのノウハウを学ぶ。

地域基礎科目のうち「地域づくり人材論」は、次代の地域社会を担う人材、地域の活性化を促す人材について、1) 地域における「人材」とは何か、2) 地域づくり人材が必要とされる背景、3) その人材に求められる役割と能力、4) さまざまな地域づくり人材像、5) その人材が生き生きと活躍する地域社会の展望等について、実際に各分野で活躍している人々を教室に招き、その存在や体験に触れながら学んでいる。

授業では、東近江で伝統ある政所茶の生産振興、日野での農福連携、琵琶湖の沖島での離島振興、滋賀県北部で地場産業をデザインの力で再生する取組や地域農業をポジティブに捉えた活動、仏像など地域文化財をいかした活動、地域資源の魅力発信などの活動、湖東地域で古民家活用など様々な分野の方々を講師に招き、受講した学生からは「様々な人の話が聞けて、自分の考え方やモノの見方が変わった。」「将来について考えさせられた。」などの感想があった。

2-2-5 地域志向科目

地域志向科目は、各学部学科の専門科目として提供されるもので、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨している。

令和3年度は、環境科学部の「環境フィールドワークⅠ」など8科目、工学部の「材料科学実験Ⅱ」など2科目、人間文化学部の「環琵琶湖文化論実習」など10科目、人間看護学部の「人間看護学概論」など4科目が地域志向科目に位置付けられている。

2-2-6 近江楽士（地域学）副専攻

1. 人材育成イメージ、身につける力と科目構成

(1) コミュニティ・ネットワーク(CN)コース

CN コースでは、①地域を客観的に分析し、人や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインする人材、②行政やNPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指し、地域を題材に具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいる。

○ CN コースの科目構成

科目	備考
地域診断法	必修
システム思考法	
問題解決デザイン論	
地域デザイン A～D	選択必修 (A、B の受講を推奨)

(2) ソーシャル・アントレプレナー (SE) コース

SE コースでは、①ソーシャル・ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業的人材、②起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指している。

令和 3 年度はより起業家の精神をもった人材を育成すべく科目構成を見直した。創業・起業事例をもとに地域課題解決手法を学ぶ「ソーシャル・ビジネス概論」、ビジネスゲームを通じ経営、経済の基本、企業の社会的価値を学ぶ「MBA 入門」、事業計画の作成を学ぶ「ビジネス・プランニング」、ビジネスプランの地域社会等での実践「地域デザイン C、D」で新たに構成した。

○ SE コースの科目構成 (令和 3 年度より)

科目	備考
ソーシャル・ビジネス概論	必修
MBA 入門	
ビジネス・プランニング	
地域デザイン A～D	選択必修 (C、D の受講を推奨)

2. 近江楽士の称号授与者

近江楽士 (地域学) 副専攻の各コースの所定の単位を修得し、所属する学科の修了要件を満たすと副専攻の修了が認められ、近江楽士の称号が授与される。

近江楽士コミュニティ・ネットワーカー (CN) 称号授与者は平成 26 年度から、ソーシャル・アントレプレナー (SE) 称号授与者は平成 30 年度から輩出している。

SE コース称号授与者の就職先は、大学院進学者を除いて、その多くが滋賀県内となっており、地元定着につながっている。

○ 近江楽士称号授与者数の推移

称号	H2 6	H2 7	H2 8	H2 9	H3 0	R1	R2	R3
CN	16	12	10	3	23	16	6	21
SE	—	—	—	—	3	5	1	4
合計	16	12	10	3	26	21	7	25
実人数	16	12	10	3	23	17	7	21

3 特徴的な講義内容等

(1) 「ソーシャル・ビジネス概論」がスタート

ソーシャル・アントレプレナーコースの一番基礎的な学びである「ソーシャル・ビジネス概論」が令和 3 年度履修登録 34 名でスタートした。この科目では社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスについて先駆者からその理念や代表事例を、またそれらを実践するための基礎的な知識の習得や県内の事例研究からノウハウを学ぶ。

具体的には①先駆者からの理念等の学びに関してはムハマド・ユヌス「貧困のない世界を創る」、淵上清二「近江商人ものしり帖」、渋谷栄一「論語と算盤」、細内信孝「コミュニティ・ビジネス」を活用し、②代表事例として、「葉っぱビジネス」、「マザーハウス」、「ボーダーレスジャパン」の取組をグループでの議論も交えて学んだ。

また、ビジネスによる地域課題解決の手法やビジネス計画、資金計画、ソーシャルインパクトのノウハウ、県内において地域資源である雑木を活用したビジネス、農福連携など福祉分野でのビジネスなどの事例を学び、グループワークでソーシャル・ビジネスを設計した。

(2) 実践現場での学び

近江楽士 (地域学) 副専攻の座学では、両コースとも地域課題に関するグループワークを中心に行い、地域デザイン A～D の講義では現場に足を運んで地域の方々の協力を得ながら実践的な学びを修得した。

○ 令和3年度の主な実践現場等

科目名	学びのフィールド等
地域デザインA	東近江市栗見出在家、大津市ナカマチ商店街、愛荘町夢まちテラスえち、多賀町大滝でのフィールドワーク、提案発表
地域デザインB	地域活動をテーマとした動画の制作で地域の情報発信のノウハウを学ぶ
地域デザインC	彦根市石寺町における居場所づくりコミュニティカフェの企画、運営
地域デザインD	新たに事業を起こす場合に必要となるビジネス・プランニング(事業計画)について、企業の経営者のアドバイスも受けながら学ぶ。



地域デザイン A 東近江市平石地区でのフィールドワーク

2-2-7 近江環人地域再生学座

近江環人地域再生学座は、湖国近江をフィールドに地域診断からまちづくり活動の実践まで、地域における多様な活動や挑戦のための知識・手法の教授を通じて、地域資源を活用した地域課題の解決や地域イノベーションを興し地域社会を切り拓くイノベーターやコーディネーターの育成を目指すプログラムである。

プログラムを修了し、検定試験に合格することで受講者には称号「近江環人(コミュニティ・アーキテクト)」が授与される。自治体職員、民間企業、NPOや自治会に所属する方、建築や都市計画の専門家など様々な所属・専門の人材が受講し、令和3年度末までに156名(うち大学院コース75名、社会人コース81名)が称号を獲得した。

令和3年度の称号授与者は大学院コース5名、社会人コース5名の計10名である。授業は対面、オンライン、オンデマンド方式を併用して行った。

受講生アンケート結果では回答者すべてが大変満足とし、感想として次のような声があった。

- ・座学だけでなく実践者講義と実践と先進地視察があったことで理解が深まった
- ・まちづくりで実際に最前線で活躍されている方の生の声を聞いた
- ・多面的な視点で地域の課題を見ることができた
- ・いろんな人と繋がりができて、ビジネスノウハウを知ることができた
- ・オンラインと対面を選ぶことができありがたかった
- ・地域内外とのつながりを広げ、コーディネーターとしての動きを意識して地域イノベーションに寄与したい
- ・近江環人としてやるべきこと、自分だからやれることを追求しながら、永続的に継続できる地域活性、地域循環ができる基盤を地元で実践したい
- ・学んだことを活かして地域に入り、関わった人達が日々の暮らしの中で笑顔になれる時間がちょこっと増えるといいなと思っている
- ・近江環人として自分の地域に誇りと希望をもって、地域がゆるやかに山を降りるにはどうすればよいか、周りの方の協力を得ながら考え行動できる人になりたい

近江環人の教育課程については外部の有識者から意見を聴いており、次のような意見が出され今後のプログラムに反映していくこととなった。

- ・近年様々な形でデータの活用が進み、デジタル田園都市構想も掲げられる中、データの扱いを含めた知見や技能を獲得できるプログラムや授業があるとよい
- ・地域の課題について、地域の企業人や経営者も共に考え、事業を展開できるとよい
- ・まちづくり人材の活躍・活用の点から、滋賀県には頑張っている人がたくさんおり、そうした人材同士はつながっているが、一般の地域の人がまちづくり人材にアプローチする仕組みが弱い



福井県「みんなの茶の間836」にて記念撮影

2-2-8 近江楽座

近江楽座の取組は、平成16年度に始まり令和3年度までの18年間で生まれたプロジェクトは延べ404件である。扱うテーマはまちづくりを始め、健康医療福祉、環境保全、農業振興、伝統文化の継承、被災地支援と広範で、活動地域も県内のみならず、県外や海外にまで及んでいる。

しかしながら、地域での活動を主体とする近江楽座は、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動の制限を余儀なくされた。

感染拡大の影響で5月26～28日、3日間全学休校となり、課外活動も禁止され、当初5月29日の予定していたプレゼンテーション・審査会を少し遅らせて6月13日に実施した。また、学生たちの活動にとって大切な夏休み期間の8月には新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が適用されたため活動が制限、さらに8月27日から大学活動レベルが引き上げられたことによって、オンラインの活動のみに制限された。後期授業が始まった10月4日からようやく通常通りの活動が行えるようになったが、年明けから再び全国的な感染拡大により、活動における感染リスクを軽減する注意喚起を行いながら、活動を進めてもらうこととなった。

このように人が集まり交流することが制限される中、事務局ではプロジェクトの取組の動画配信に力を入れ、学内外へ学生たちの活動を積極的に発信した。4月の活動成果報告会、またWEBオープンキャンパスでの近江楽座の取組の発信、8月には2020年度の近江楽座チームの取組をまとめた動画「2020年度 近江楽座プロジェクトギャラリー」を作成し配信、12月の中間報告会の模様も動画で配信し、より多くの人に、オンデマンドでいつでも、どこでも近江楽座の学生たちの活動を見てもらえるようにした。

令和3年度の事業実施日程と採択プロジェクト一覧は後掲・表のとおりである。Withコロナの実践の中で、試行錯誤しながらコロナ禍とは思えないような成果や新たな工夫も数多く行われてきている。各プロジェクトの具体的な取組について、以下、共通する内容をまとめ、トピックスとして紹介していく。

【活動のトピックス】

(1) 取組成果を1冊の本にまとめ、展示会を開催

たけともミライが、10年間の被災地支援の取組をまとめたブックレット「被災地に生きた竹建築—竹の会所—」の改訂版を作成。また、大学内カフェテリア（2021年11月）と滋賀県立美術館（2022年3月～4月）で展示会「竹の会所のものがたり展」を開催した。



たけともミライ 「竹の会所のものがたり展」

(2) 活動が外部から評価される

たけともミライ代表の里本麗さんが一般財団法人 学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体助成事業」に応募し、活動体験をまとめた「被災地支援と私たちにできること」が、学生ボランティア団体活動体験レポートの優秀作品に選ばれた。

ボランティアサークル Harmony が、メロディーとともに行っている油絵制作の定例活動で子どもたちが描いた作品が、滋賀県内の障がいのある方の造形作品を募集した「第11回びかつ to アート展」にて大賞と審査員特別賞を受賞した。

(3) ネットを活用した販路拡大や活動の新たな取組

政所茶レン茶 が、お茶のネット販売を行い、対面販売では難しかった遠方のお客さんにもお茶を届けられるようになり、県内外の多くの地域の方に継続して政所茶を味わっていただくことができるようになった。

ボランティアサークル Harmony が、コロナ禍においてもオンラインでできる活動として始めた「ハーモニー学習会」を今年度2回開催し、養護学校の先生方や障がいを持つ親御さん、卒業生のお話を聞かせていただき、学びを深めることができた。

Jesuit House Project が、フィリピンの方を対象としたワークショップをオンラインで行い、女性たちが制作したハンドクラフトジュエリーと水彩画の展示会を近江八幡市の白雲館と大学内交流センターで行った。



Jesuit House Project ハンドクラフトジュエリーと水彩画の展示（近江八幡市白雲館）

また、キャンパス SDGs びわこ大会 2021 に参加し、他の SDGs の活動に取り組む学生と共に、「一層大きな自由のために」をテーマにプレゼンを行い、三日月滋賀県知事とオンラインで対談を行った。

(4) 滋賀県安心安全店舗の認証を受け営業再開

コロナにより飲食を伴う活動が制限されていたが、滋賀県安心安全店舗認証制度の承認を受け、とよさと快蔵プロジェクトが、Bar タルタルーガを 2022 年 2 月に、2 年ぶりに復活させることができた。休業中は店内の清掃や棚づくり、メニューの開発など、リニューアルオープンに向けて準備を進めた。再開した際は町の人や常連だったお客様に来て頂き、コミュニケーションの拠点となる場所として重要性を再確認することができた。

おとくらプロジェクトも、喫茶営業の再開に向けて、認証を受けるための準備を進めた（その後、認証を受け、約 2 年ぶりの 2022 年 5 月 7 日から営業を再開）。



とよさと快蔵プロジェクト Bar タルタルーガ再開

(5) コロナ禍においてもできるイベントを工夫し実施

とよさと快蔵プロジェクトが、プロジェクトメンバーがそれぞれの個性を表現した作品の展示会を計画・実施した。町の人たちにも見てもらうことができ、さまざまな人の繋がりを築くことができた。

あかりんちゅでは、コロナ前と比べても多数のイベントや教室開催の依頼をいただいた。静かに楽しむキャンドルの特性が情勢にマッチしていたのではないかな。

(6) 長らくできなかったイベント等が実施できた

BAMBOO HOUSE PROJECT が、11、12 月に宿泊を伴うワークショップを実施することができた。

フラワーエネルギー「なの・わり」が、2 年ぶりに子ども向けイベント・科学実験教室を、8 月に長浜市のヤンマーミュージアムで開催することができた。

あかりんちゅが、8 月に日野町の滋賀農業公園ブルーメの丘で、約 3,500 個のキャンドルを点灯してキャンドルナイトを行うことができた。

未来看護塾が、地域の人たちの健康を支援するイベント「応援！生き生き健康生活」を 12 月に、ビバシティ彦根で無事開催することができた。多くの方々に楽しく参加していただいた。

かみおかへ古民家活用計画が、地域の方々との交流が減る現状を改善しようと、地域の小学生を対象とした正月遊びのイベントを開催し、2 年ぶりに古民家でのイベントを復活することができた。遊びを通して子どもたちが楽しめる企画となり、保護者の方とも交流でき、大変よろこんでもらえた。



未来看護塾 ビバシティ彦根 ちびっこ広場

(7) 新たな特産品づくりや商品開発にチャレンジ

政所茶レン茶が、家に急須がないという若い世代でも利用できるよう、ティーパック番茶の商品化を実現した。

また、商品のパッケージデザインをメンバー自ら考案したスタイリッシュなものに一新し、若い世代やファミリー世代にもより親しみを持ってもらえるようになった。

座・沖島が、耕作放棄地を畑に整備し、青パパイヤを収穫することができた。その青パパイヤを使ったカレーと福神漬けの試食会を行った。

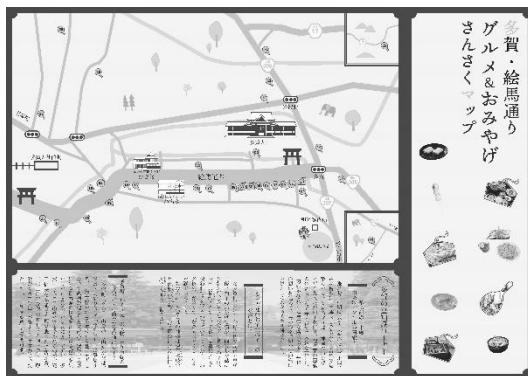


座・沖島
収穫した青パパイヤ

(8) 地域の課題に応える成果物の作成や催しを実施

沖島 RYUBOKU HUT プロジェクトが、「休憩所でゆっくりできるような屋根がほしい」という住民の方の要望に応え、躯体となる流木に葦を葺いて屋根をかけた。

Taga-Town-Project が、多賀観光協会から依頼を受け、多賀大社門前の飲食店やみやげもの店などを一軒一軒訪ね、新たな魅力なども発見しながら 32 の店舗を紹介する「多賀・絵馬通り グルメ&おみやげ さんさくマップ」を作成した。



Taga-Town-Project

多賀・絵馬通り グルメ&おみやげ さんさくマップ

廃棄物バスターズが、日本財団と環境省の共同事業として実施する全国一斉清掃活動「秋の海ごみゼロウィーク」に参加。びわ湖放送の方々と彦根市の湖岸緑地大藪、松原

水泳場、南三ツ谷公園で清掃活動を行った。カードを用いたゴミ調査も行った。

田の浦ファンクラブ学生サポートチームが、大阪防災プロジェクトと共同で、滋賀県を舞台にして、遊び感覚で楽しみながら防災知識を学ぶことができるすごろくゲーム「びわ湖一周防災ゲーム」を作成した。

地域博物館プロジェクトが、これまで収集した民具と休校の学校を活用して、重要文化的景観に登録された東草野の資料館をつくるため、ジオラマ制作等行い展示室づくりを進めた（令和4年度開館予定）。

(9) 地域との新たな関わりを模索、構築できた

新規プロジェクトの沖島 RYUBOKU HUT プロジェクトが自治会のイベントに招いていただき、RYUBOKU HUT とその周辺にイルミネーションを行った。また沖島の文化祭にも参加した。

同じく竹林 GAKU が、近江八幡市円山町でヨシの保全を行っている「まるやまの自然と文化を守る会」が主催する竹とヨシを使ったイベント「第1回ヨシフェス」にあかりんちゅと協力して参加した。



沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト沖島文化祭で活動を報告

同じくお山さんありがとさんが、荒神山の三地点を対象とし里山整備活動を行い、その内の一地域で学生主導で活用できるフィールドが確保できた。

おとくらプロジェクトでは、喫茶営業の休止や各種イベントの中止によって地域の方々と関わる機会は激減してしまいましたが、高宮歴史研究部会という地域団体の活動に参加する形で新たに地域とのかかわり方を構築することができた。

かみおかべ古民家活用計画では、コロナで多くの地域行事がやむなくとりやめとなっているが、地域の清掃活動に

参加させていただき、地域の方々との交流を深めた。また、年度末に行われた上岡部町の定期総会にも参加し、1年間の活動報告を行った。

(10) 依頼があり、活動がさらに周辺地域へと広がった
BAMBOO HOUSE PROJECT では、活動拠点の「竹の庭」隣の個人所有の竹林の持ち主から、ぜひうちの竹林も整備してほしいという依頼を受け、学生とまちづくり協議会の方々とで竹林整備を行った。地域の人たちに活動を知ってもらって、認められてきている。

(11) その他、多種多様な活動を展開
今年度から活動を開始した県大ラジオ部が、エフエム彦根で自主製作番組を放送した。また、彦根銀座街でえびす講開催時に公開放送を行った。



県大ラジオ部
彦根銀座街での公開放送（えびす講開催時）

とよさradプロジェクトでは、たくさんの新入生が加入し、作業が楽しく、スムーズに行えるようになった。また、昨年植えたミカンに初めて実がついた。

滋賀県大生き物研究会が、大学内の環濠でウシガエルの駆除を実施。環濠には、在来種も外来種も色々な生物が生息しているおり、特にウシガエルの個体数が多い。カニカゴを使って多くのウシガエル（幼生）を駆除した。

田の浦ファンクラブ学生サポートチームが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で定期訪問ができなくなり、「つながり」を継続するために「田の浦ファンクラブ通信」を発行、送付した。

男鬼里山集落再生プロジェクトが、男鬼集落にある歴史的な民家を再生することを目的に、民家と敷地の清掃活動を行った。また、11月に行われた「しめ縄奉納会」の際に「清掃途中展」を開催した。

○ 令和3年度の事業実施日程

日程	行事
4月19日～5月17日	プロジェクト募集
4月21～23日	2020年度活動成果報告会開催
5月26～28日	新型コロナウイルス感染拡大のため全学休校、課外活動の禁止
6月13日	令和3年度プレゼンテーション・審査会
6月18日、22日	審査結果発表＜22プロジェクト採択＞、活動説明会・プロジェクト活動開始
7月9～26日	プロジェクト追加募集
7月29日、8月5日	追加募集プレゼンテーション・審査会、結果発表＜1プロジェクト採択＞
10月18,20～22,25日	助成金中間ヒアリング
11月20日	キャンパスSDGsびわ湖大会（オンライン開催） 学生知事対談（1チーム参加）、パネル展示（18チーム出展）
12月14～17日	中間報告会開催
3月1～7日	助成金最終ヒアリング
3月15日	活動実績報告提出

○ 令和3年度の採択プロジェクト一覧

プロジェクト名	活動エリア	関連団体
政所茶レン茶”ー	東近江市政所町	政所茶縁の会
県大ラジオ部	彦根市	エフエムひこねコミュニティ放送株式会社
とよさと快蔵プロジェクト	豊郷町	NPO 法人とよさとまちづくり委員会
BAMBOO HOUSE PROJECT	湖南市菩提寺	菩提寺まちづくり協議会
フラワーエネルギー「なの・わり」	彦根市	菜の花プロジェクトネットワーク
あかりんちゅ	彦根市、県内他	滋賀教区浄土宗青年会
障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト（ボランティアサークル Harmony）	彦根市、東近江市他	NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー
未来看護塾	彦根市	彦根市立病院、特定非営利活動法人 NPO ぼぼハウス、城南保育園
とよさだプロジェクト	豊郷町	豊郷町役場
沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	近江八幡市沖島町	沖島ファンクラブ「もんで」
Taga-Town-Project	多賀町	一般社団法人多賀観光協会
廃棄物バスターズ	彦根市、県内他	社会福祉法人いしづみ会 他
犬上川竹林整備プロジェクト（竹林 GAKU）	彦根市	犬上川開出今地区竹林愛護会、彦根市、滋賀県
たけともミライ	宮城県気仙沼市	(株)高橋工業
座・沖島	近江八幡市沖島町	沖島町離島振興推進協議会、沖島自治会
おとくらプロジェクト	彦根市高宮町	高宮連合自治会
内湖の再生と水辺のコーディネート（滋賀県大生き物研究会）	彦根市神上沼他	彦根市愛西土地改良区
田の浦ファンクラブ学生サポートチーム	宮城県南三陸町歌津地区田の浦、県内	NPO 法人田の浦ファンクラブ他
地域博物館プロジェクト（スチューデント・キュレーターズ）	彦根市・米原市・高島市・近江八幡市	白谷荘歴史民俗博物館他
Jesuit House Project	フィリピン セブ市	NPO 法人 Foot Roots、NPO 法人セブンスピリット、HO-TONG FOUNDATION、
男鬼里山集落再生プロジェクト（オオリヤロウ）	彦根市男鬼集落	男鬼集落の家屋所有者（元住民の方）
お山さんありがとさん	彦根市荒神山他	おうみ木質バイオマス利用研究会、YOBISHI 他
かみおかベ古民家活用計画－SLEEPING BEAUTY－	彦根市上岡部町	上岡部町自治会、ベストハウスネクスト(株)

2-3 SDGs 地域化拠点の取組



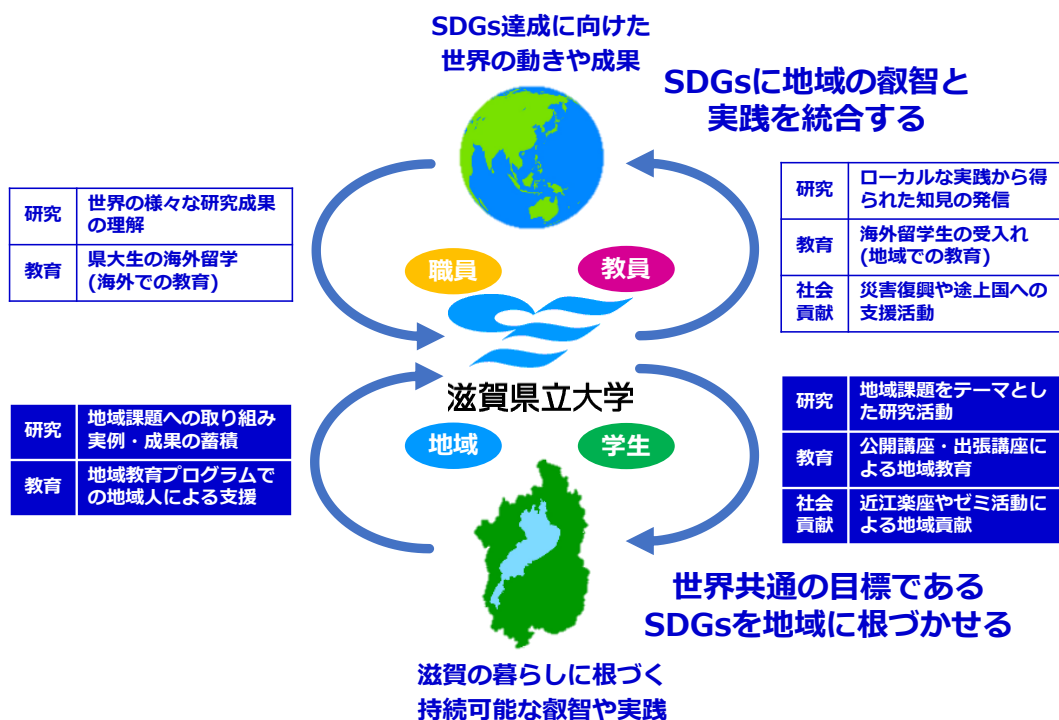
滋賀県立大学SDGs宣言

- S 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G グローカルな思考と実践をもって
- s 世界と地域の発展に貢献します

2-3-1 SDGs に関する取組の全体像

本学では、平成30年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行った。大学のSDGsへの取組みとしては2つの方向性から考えることができる。一つは、世界共通の持続可能な開発目標であるSDGsをこの滋賀の地に適合させ、

根付かせること。そしてもう一つが、既に近江商人の三方よしの精神に基づき、長年に亘り、実践され、蓄積されてきた暮らしとなりわいにおける様々な地域の叡智を世界に発信し、SDGsに統合しようとするところである。この双方向的な“SDGsの地域化”こそが、大学が果たすべき役割であると考え、取組みを進めている。



2-3-2 キャンパス SDGs びわ湖大会 2021

- 開催日時 令和3年11月20日(土)
10時30分から16時30分
- 開催形式 オンライン開催
- 当日参加申込者数：166名
オンデマンド視聴回数 1,528回 (R4.3.23 現在)
- プログラム

総合司会・進行 山尾 萌々佳さん(滋賀県立大学)

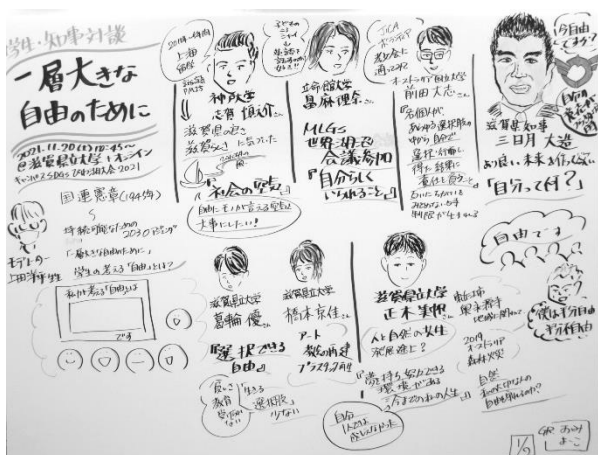
(I)第I部 学生知事対談

テーマ：「一層大きな自由のために」

ウィズコロナ、ポストコロナの世界を見据え、
「一層大きな自由のために」をテーマとして、今日
における自由の意味や機能、これからの時代の自由
のあり方などについて学生と三日月知事の対談
を行った。

○登壇者

名前	所属
正木 美帆さん	滋賀県立大学大学院 環境科学研究科1年
前田 大志さん	JICA/ オーストラリア国立大学大学院進学予定
志賀 慎之介さん	神戸大学 法学部1年
橋本 京佳さん	滋賀県立大学 環境科学部4年/ 近江楽座 Jesuit House Project
葛輪 優さん	
畠 麻里奈さん	立命館大学 国際関係学部1年
三日月大造さん	滋賀県知事
上田洋平 (モデレーター)	滋賀県立大学地域共生センター講師



対談の様子のグラフィックレコーディング

(2)第II部 基調講演

博報堂 DY ホールディングスグループ広報・

IR 室 CSR グループ推進担当部長 川廷昌弘氏

モデレーター：滋賀県立大学地域共生センター

教授 鶴飼 修

川廷氏からは、SDGs の地域化に向けて SDGs を自分ごと化し、「SDGs で自分を変える、未来が変わる」をテーマに SDGs への取り組み方について講演いただいた。



基調講演：川廷 昌弘氏

(3)第III部 滋賀の SDGs・MLGs ひろば(分科会)

4つの分科会に分かれて、県内外の学生、地域活動団体、企業等が活動報告を行い、SDGs の地域化のためのポイントを議論した。ファシリテーターには、マザーレイクゴールズ推進委員会(MLGs)、しがローカル SDGs 研究会(SL2)の協力をいただき、本学学生と一緒に議論を進行した。

○第1分科会 テーマ「社会」

・ファシリテーター：一伊達 哲さん(MLGs)

田村 彩華さん(滋賀県立大生)

・活動報告者：

廃棄物バスターズ(滋賀県立大学近江楽座)

株式会社 人生最幸

立命館大学阿部俊彦研究室

湖をつくる会

○第2分科会 テーマ「人間」

・ファシリテーター：村上 悟さん(MLGs)

大原 悠人さん(滋賀県立大生)

・活動報告者：

聖泉大学 地域看護学領域

○第3分科会 テーマ「自然文化」

- ・ファシリテーター：辻 博子さん (SL2)
菊河 奈奈さん (滋賀県立大生)
- ・活動報告者：
NPO 法人国際ボランティア学生協会
琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会
甲賀市立朝宮小学校
滋賀文教短期大学 国文学科1年生

○第4分科会 テーマ「経済」

- ・ファシリテーター：吉本 智さん (SL2)
脇 捺夢さん (滋賀県立大生)
- ・活動報告者：
彦根商工会議所青年部
(株)セブン-イレブン・ジャパン
ゆいまある (滋賀県立守山高等学校)



2-3-3 教育、研究、地域への波及

Ⅰ SDGs 連続講座

今年度も引き続き、コロナウイルス感染拡大の影響で、対面での連続講座の実施はリスクが高いと判断し、オンライン(ZOOM を使用)で社会課題をテーマにした映画の上映会を開催することとした。また映画のテーマに関連する活動を実践されている方をゲスト講師として迎えてのミニレクチャーも昨年度から継続して実施し、参加者にも好評であった。さらに連続講座参加者を少人数にグループ分けし、お互いに映画や講演についての感想や気づきを共有した。

○ 上演作品、講師、関連する SDGs ゴール一覧

1	映画名	「グリーン・ライ〜エコの嘘〜」
	開催日	2021.10.20
	講師	辻 博子さん (しがローカル SDGs 研究会)
	SDGs	6, 7, 12, 14, 15, 17
2	映画名	「気候戦士〜クライメート・ウォーリアーズ〜」
	開催日	2021.11.1
	講師	ゲスト：ディーガン 美佐子さん (まんまるなないろの地球)
	SDGs	7, 9, 13, 17
3	映画名	「プラスチックの海」
	開催日	2021.12.2
	講師	小倉 淳さん (長浜バイオ大学 教授)
	SDGs	6, 12, 14, 17
4	映画名	「ハッピー・リトル・アイランド」
	開催日	2021.12.15
	講師	岡崎 瑞生さん (滋賀県立大学人間看護学部 講師)
	SDGs	10, 11, 12, 14

《自主上映会の開催》

今年度は上記4回の連続講座を実施したが、その他に学内外の団体に自主上映会の企画運営者を募集したところ、以下の団体から応募があり、自主上映会を開催することとなった。「連続講座で上映した映画をほかの人にも観てもらいたい」、「この映画を観てみたい」といった自発的な動機で映画上映会が開催されたことの意味は大きいと感じた。

《自主上映会実施概要》

- ・1/15「グリーン・ライ～エコの嘘～」
企画運営：しがローカル SDGs 研究会
- ・1/24「グリーン・ライ～エコの嘘～」
企画運営：徳満勝久研究室
- ・2/22「simplife」
企画運営：河かおる研究室
- ・3/7「ジェンダー・マリアージュ～全米を揺るがした同性婚裁判～」
企画運営：河かおる研究室
- ・3/17「プラスチックの海」
企画運営：しがローカル SDGs 研究会
- ・3/25「ワンダーランド北朝鮮」
企画運営：木村可奈子研究室



SDGs連続講座 2021【全4回】
三方よしαシネマ 参加費無料

2021年（令和3年）春（1月）滋賀県立大学地域連携推進部 地域共生センター（西口）で開催

映画からSDGsの扉をひらく。あなたと未来がつながる。 **オンライン開催 ZOOMを使用します**

対象：SDGsに関心のある社会人、学生
ZOOMの視聴環境を準備可。参加費無料。視聴する時間（配信、録画、復習の力）
募集定員：50名

申込方法：以下のURL(QRコード)よりお申し込みください。
参加方法の詳細については受付時に詳細な説明を行います。
【参加申込フォーム】 <https://forms.office.com/r/9817a2qy6b8>

【開催概要】

第1回：2021年10月20日（水） 19:00～21:15
映画 グリーン・ライ エコの嘘
ゲスト：辻 博子さん（しがローカルSDGs研究会）

第2回：2021年11月1日（月） 19:00～21:15
映画 気候戦士～クライメイト・ウォリアーズ～
ゲスト：ディーガン美佐子さん（まんまるはないの地球）

第3回：2021年12月2日（木） 19:00～21:15
映画 プラスチックの海
ゲスト：小島 与さん（長崎バイオ大学・教授）

第4回：2021年12月15日（水） 19:00～20:45
映画 ハッピー・リトル・アイランド
ゲスト：岡崎 瑞生さん（国研プロジェクト・公開研究会 講師）

作品情報

【講座の進め方】

- ① 映画上映（ZOOM画面共有）
- ② ゲスト講師によるミニレクチャー
活動紹介や映画の感想など（15分程度）
- ③ 参加者間での感想や意見交換
ブレイクアутルーム機能により4-5名のグループでの感想共有など自由対話
※各グループごとに録画機能（15-30分）
- ④ レポート提出
アンケートフォームに映画や講演、意見交換などから得た気づきや感想をまとめて送信

問合せ先：公立大学法人滋賀県立大学 地域共生センター（西口）
主催：びわ湖東北部地域連携協議会
☎ 0749-28-9851 ☒ chiki@office.usp.ac.jp

SDGs 連続講座フライヤー

2 SDGs 出前講座

県内外の行政や教育機関、企業等からの要望を受けて、講演等を実施した。

○ SDGs 出前講座等の出講先

	時期	出講先・講演内容
1	2021.5.26	アーバンデザインセンターびわこ・くさつ アーバンデザインセミナー
2	2021.6月	彦根東高等学校 全校生徒向け オンデマンド授業
3	2021.6.21	滋賀県男女共同参画センター SDGs ユースリーダーセミナー
4	2021.7.1 10.1 12.1 2022.3.1	FM 滋賀開局 25 周年特別番組 「やっぱり滋賀が好き“滋賀をもっと元気に”『SDGs とは?これからの滋賀』」
5	2021.7.13	東近江市商工会女性部 SDGs セミナー
6	2021.7.22	彦根商工会議所青年部例会
7	2021.7.25	滋賀県男女共同参画センター ジェンダー平等こども会議
8	2021.10.3	彦根市 環境保全指導員連絡会議
9	2021.11.10	多賀町 民生委員・児童委員協議会
10	2022.1.20	長浜市木之本ライオンズクラブ 例会
11	2022.3.18	愛荘町 K's テック社内研修会
12	2022.3.25	愛知大学 国研プロジェクト・公開研究会 「SDGs・大学・地域」

2-4 コロナ禍の学生への食糧支援の取組

2-4-1 概要

長引くコロナ禍の中、滋賀県立大学での勉強や研究、課題活動などの学生生活が少しでも充実したものとなるよう、令和2年度に引き続き地域の皆様の協力を頂きながら、次のとおり食糧支援を実施した。

また、規格外野菜や消費期限間近の食品の学生への配布は、SDGs 達成に向けそのターゲットの一つである食品ロス削減につながり学生にもその趣旨を伝えた。



配布食糧：キュウリ約1,200本、永源寺産お味噌200個

配布学生：約350人

提供団体：JAグリーン近江

特記事項：キュウリは規格外サイズのもの、お味噌はコロナ禍で出荷先を失ったもの。

2-4-2 支援の経過

(1) 第1回目

日時：令和3年4月21日（水）、22日（木）

配布食糧：地元企業保管の備蓄用食糧スーパーバランス640個

配布学生：640人

提供団体：彦根市社会福祉協議会

特記事項：備蓄用食糧は消費期限1ヶ月前のもの



(2) 第2回目

日時：令和3年5月12日（水）

(3) 第3回目

日時：令和3年7月8日（木）

配布食糧：ジャガイモ約140kg、お米141kg、永源寺産お味噌260個、玉ねぎ20kg、キャベツ約100個

配布学生：約400人

提供団体：近江日野交流ネットワークの日野町の農家の皆さん、JAグリーン近江、県立大学卒業生の農家さんなど

特記事項：日野町の農家の皆さんが県大生のためにと栽培頂いたジャガイモなどを直接学生に対して、激励とともに手渡して頂いた。



(4) 第4回目

日時：令和3年10月6日（水）

配布食糧：お米 655kg、ジャガイモ 6 ケース、備蓄用パン、ふりかけ、その他食糧

配布学生：約 300 人

提供団体：近江日野交流ネットワークの農家さん、フレンドリーファームいしでら、彦根市社会福祉協議会、滋賀県立大学後援会など

特記事項：ジャガイモは主に規格外サイズ。廣川理事長兼学長からも手渡しと声掛け。



(5) 第5回目

日時：令和3年11月4日（木）

配布食糧：お米 600kg、彦根梨カレー 300 個、地元お味噌 300 個、地元産野菜多数、マスク 300 個、ふりかけ 300 個

配布学生：300 人

提供団体：JA 東びわこ（滋賀県立大学後援会はふりかけを提供）

特記事項：JA 東びわこ代表理事理事長をはじめ本学 O B ・ O G を含む職員の皆さんから学生に激励とともに手渡し頂いた。



(6) 第6回目

日時：令和3年12月15日（水）

配布食糧：お米 460kg、大根 350 本以上、里芋 730 個、サツマイモ 108 個、ジャガイモ 108 個、白菜 50 個、ほかレタス、ハウレンソウ、バターナッツカボチャなど地元産野菜多数、お漬物、かきもちなど

配布学生：350 人

提供団体：近江日野交流ネットワークの農家の皆さん

特記事項：農家の皆さんが県大生のためにと栽培頂いた大根をはじめとする様々な冬野菜、そしてお米を直接学生に声を掛け、手渡し頂いた。
本学生生活栄養学科奥村准教授作成の冬野菜レシピを学生に配布し、USPo で全学生に共有した。



(7) 第7回目

日時：令和4年1月20日（木）

配布食糧：多賀にんじん 300 本以上、お米 83kg、大根 34 本、里芋 22 袋、ハウレンソウ 23 束、春菊 16 束、ラーメン 42 袋、カレールー 17 個、缶詰 15 個、レトルトカレー 14 個、その他食糧品、飲料水多数

配布学生：約 200 人

提供団体：JA 東びわこの多賀にんじんクラブ、多賀町蔬菜園芸組合、女性部の皆さん

特記事項：上記団体の皆さんが県大生のためにと、大雪の中収穫された地域特産の多賀にんじんをはじめとした野菜やお米、食糧品などを直接学生に声を掛け手渡し頂いた。



日野町の綿向山を背景に農家さんと撮影

《学生の声（10月6日の食糧支援のアンケートから）》

- ・食品に困っている学生を支援頂きありがとうございます
- ・どうか、ご支援頂いた農家の皆さまへもよろしくお伝え願います
- ・家に帰って早速炊きました。スーパーのお米より美味しかったです
- ・購入時に生産者さんを意識することはありませんでした。これを機に生産者さんへの感謝を忘れずに調理して味わいたいと思います
- ・毎朝お米を食べてます
- ・美味しいお米とじゃがいもをありがとうございます！ジャガイモはカレーに使わせていただきます。まだ食べられるものを捨てるのではなく、困窮している方に渡すのは良い活用法であるし、無駄にならずに誰かがそれをいただいて幸せになれるのでフードロス削減はもっと力を入れるべきだと思います。ありがとうございます！

《日野町での野菜収穫体験と農家の皆さんとの交流》

近江日野交流ネットワークの皆様が、学生たちを応援しようと日野町でのジャガイモや冬野菜などの農作物の収穫体験と農家さんとの交流事業を令和3年7月4日および12月11日に実施頂き、学生が各回それぞれ6名、12月には教職員の3家族9名が参加した。

《今後の取組予定》

今後も地域のご支援を頂きながら学生を支援し、本学としても地域に貢献する大学として地域と密接に連携し課題解決に取り組む。あわせて、SDGsのターゲットの一つである食品ロス削減にもつながる規格外野菜等の学生への提供も農家さんの協力を得ながら継続する。

2-5 地域連携

2-5-1 滋賀県立大学地域連携 相談窓口の相談対応

地域と本学をつなぎ SDGs の達成に向けた取組をはじめとする本学のシーズを生かした地域貢献を推進するため、地域共生センターに地域連携相談窓口の設置を設置し、地域連携コーディネーターを配置した。

これまでの相談対応件数は次のとおり。

○ 地域連携相談窓口の相談受付件数

年度	相談対応件数
平成 30 年度	35 件
令和元年度	64 件
令和 2 年度	78 件
令和 3 年度	93 件

○ 令和 3 年度の相談者分野別件数

行政	30 件	地域団体	17 件
学校等	13 件	研究機関	0 件
企業	19 件	学内	9 件
経済団体	4 件	学生団体	1 件

○ 地域連携窓口の連絡先

滋賀県立大学地域共生センター

TEL : 0749-28-9851

FAX : 0749-28-0220

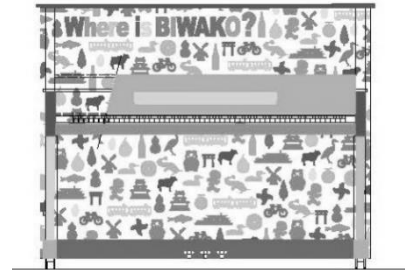
e-mail : chiiki_koken@office.usp.ac.jp

○ 連携の事例

(1) ストリートピアノのデザイン

三井アウトレットパーク滋賀竜王に設置されているストリートピアノのデザインを本学の学生が担当した。滋賀県立大学と三井アウトレットパーク滋賀竜王は 2020 年 9 月に包括連携協定を締結し、本プロジェクトは、連携協定の一環として、人間文化学部生活デザイン学科の南研究室の学生がデザインを担当した。滋賀の名所や名物をそれぞれカラフルなアイコンであしらった賑やかなデ

ザインに仕上がった。また、アイコンの中には「琵琶湖」が一つだけ隠れており、見ている人が思わず琵琶湖を探したくなる、そんな遊び心のある楽しいデザインになっている。



ピアノデザイン



デザイン担当の長谷川さんとストリートピアノ

(2) 琵琶湖の葦を使ったエコバックデザイン

琵琶湖の葦(よし)布でサステナブルな湖国の新たな特産品を作るプロジェクト。滋賀県立大学と高島市の高麻株式会社がコラボレーションして、人間文化学部生活デザイン学科徐研究室の学生が商品の企画・デザインを担当して「琵琶湖の葦(よし)布(ぬの)エコバック」として商品化した。



2-5-2 県内自治体等との連携

本学は県内市町と連携協力して地域課題解決に資する取組を行い地域社会に貢献するため、平成22年度より連携協力に関する協定の締結を進めている。令和3年度は新たに2市町との包括連携協定を締結した。また、これまでに包括連携協定を締結した市町には、新たな連携取組を生みだすことを目的に連携希望案件の調査を実施した。

(1) 野洲市との包括連携協定

令和4年3月14日には野洲市と協定を締結し、①人材の育成に関する事業、②地域の活性化に関する事業、③自然環境の保全及び活用に関する事業、④健康づくりに関する事業、⑤SDGsの普及・実践に関する事業に連携して取り組むこととした。野洲市とは「魚のゆりかご水田」の取組などで本学の教員が連携するなどの実績があり、今後、自然環境の保全・活用や脱炭素社会の実現に向けた取組などでも連携することとした。



野洲市との連携協定調印式

(2) 日野町との包括連携協定

令和4年3月23日、日野町との包括連携協定の締結に合意した。①人材の育成に関する事業、②学生の地元就職の推進に関する事業、③地域の活性化に関する事業、④産業・農業の振興に関する事業、⑤SDGsの普及・実践に関する事業に取り組むこととした。

包括連携協定に基づき、地域教育プログラムの地域フィールドワークや地域課題の解決等に取り組む講義を日野町で実施。本学の学生が地方自治の現場におけ

る政策形成過程の体験や地域の実情に即した政策形成に必要な知識と能力を身に着けることを目的に、日野町職員と一緒に地域課題の解決に取り組んだ。学生にとっては、公務員の仕事体験や学びにつながった。



日野町との連携協定調印式（令和4年6月）

○これまでに県内自治体と締結した連携協定の状況

番号	年月日	協定締結相手方
1	H23.3.24	彦根市
2	H23.4.15	近江八幡市、近江八幡商工会議所、安土町商工会
3	H23.6.23	長浜市
4	H24.9.7	東近江市
5	H24.12.27	米原市
6	H25.7.3	守山市
7	H26.6.26	愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
8	H28.3.30	草津市
9	H31.1.16	大津市
10	R1.9.5	竜王町
11	R2.10.2	高島市
12	R4.3.14	野洲市
13	R4.3.23	日野町

2-6 生涯学習

「春期公開講座」、「公開講義」はともに、開学翌年の平成8年から実施している事業である。一方、「社会人専門講座」は平成26年度から実施してきた。

しかしながら、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、前年度に引き続き、学内での対面での取組は全て中止となった。一方で、オンラインを活用した公開講座を他大学とも連携しながら実施した。

2-6-1 公開講座

公開講座は、地域住民の知的欲求に応え、知識や教養を身につける学習機会の提供ならびに本学の有する知的財産を地域住民に還元し、開かれた大学として本学の地域社会に対する役割を果たすことを目的としている。

(1) 春期公開講座

昨年度春に実施予定であったが中止となった公開講座の4名の講師による講義を改めて収録し、オンデマンド方式で限定配信した。

『絵図と作事記録からわかる江戸大名屋敷』

環境科学部 講師 高屋 麻里子

『データサイエンスによる文章からの知識発見』

工学部 教授 砂山 渡

『美食批評とフランス近代』

人間文化学部 准教授 橋本 周子

『子どもの貧困や虐待を防止するために私たちができること』

人間看護学部 准教授 馬場 文



(2) 社会人オンライン公開講座

人間文化学部地域文化学科 金宇大准教授による「世界遺産の理念と彦根城の取り組み」をテーマにした社会人オンライン公開講座を実施した。(詳細は5ページ参照)

(3) びわ湖東北部地域連携協議会市民教養講座

同協議会を構成する5大学・短期大学が共同で、地域の皆さんの学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目的にオンライン配信による市民教養講座を実施し、本学からは次のとおり参画した。

『認知症はどこまでわかったか』

理事・副学長 人間看護学部 教授 安原 治

『プラスチックのマテリアル・リサイクル』

工学部 教授 徳満 勝久

2-6-2 公開講義

公開講義は、本学の講義を地域住民に公開することにより、地域の人々へ学習の機会を提供することを目的としている。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、前年度に引き続き中止した。

2-6-3 リカレント教育

VUCAの時代と言われ、不確実で将来の予測が困難な状況にある今日、持続可能に発展する社会づくりのためには現役時代のリカレント教育が不可欠で、大学の果たす役割も大きい。

本学では、令和3年3月24日に包括連携協定を締結した滋賀県中小企業家同友会と令和4年度のリカレント教育プログラム開設を視野に協議を進めている。

2-7 他大学等との連携

2-7-1

環びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内 14 大学と県、市町、関係団体で構成される環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける以下の大学地域連携事業に他大学等と連携して取り組んだ。

○令和 3 年度の本学に関わる主な事業

① 大学地域連携課題解決支援事業

令和 3 年度の実施事業 19 件に助成（本学は「お弁当ラリーを通じた大津ナカマチ SDGs 商店街プロジェクト」（コロナで中止）と「Explore Hikone！！～地域マップの多言語化を通して多文化共生をすすめよう～」が採択された。）

② 学生支援事業

「学生による滋賀の SDGs や地域の魅力の発信」をコンセプトに、県内大学の学生により組織される学生委員会と連携し、持続可能な社会を実現する活動の情報を発信するブックレットの制作などの事業に取り組んだ。
本学からも 1 名の学生が参加した。

③ 単位互換事業

13 大学から対面授業や遠隔授業により実施する 65 科目の提供を受け開講した。
コロナ禍での対面と遠隔の切り替え、開講日の変更など、各大学にて工夫しながらの講義となったが、7 大学から 70 名（重複あり）が 25 科目に出席した。受講登録者は当初 69 名であったが辞退などもあり 67 名が登録した。単位付与者は 49 名であった。

④ 政策研究事業

滋賀県からの委託事業である「県内大学等と地域のパートナーシップ推進に関する政策研究事業」について、パートナーシップに関して他の地域での経験を調査し、現在のコンソーシアム活動の総括、国や経済団体のパートナーシップに対する考え方を整理したうえで、今後滋賀県、コンソーシアムの事業をどう考えていくか、4 つの提言（案）にまとめた。この事業推進委員会には、本学地域共生

センターの鶴飼教授が委員として参画した。

2-7-2 大学サテライト・プラザ彦根

彦根市内の 3 大学、株式会社平和堂、彦根商工会議所、彦根市が協働で運営するものであるが、新型コロナウイルス感染症拡大のため事業を縮小して実施した。なお、大学や地域を取り巻く諸情勢の変化を踏まえ、令和 4 年 3 月末日をもって大学サテライト・プラザ彦根は閉鎖となった。

①「彦根・湖東学」

彦根・湖東地域の自然環境、地域社会、歴史について理解を深めることを目的に 3 大学と彦根市がテーマに沿って 1 日ずつ講義を担当するものであるが、令和 3 年度は中止した。

②特別講演会

前記特集 1 の 3 サテライト特別講演会に記載のとおり、令和 4 年 2 月 25 日文化庁の文化資源活用課文化遺産国際協力室文化財調査官の鈴木地平氏を招き「成熟した世界遺産を目指して」をテーマに実施した。

2-7-3 びわ湖東北部地域連携協議会

びわ湖東北部地域の 5 大学、県、3 市、2 商工会議所、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの連携によって、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に向けて、次の事業に取り組んだ。

○令和 3 年度の本学の関わった主な事業

・地域コミュニティの活性化のため、前記 2-6-1 公開講座の項に記載のとおり、生涯学習事業として「社会人オンライン公開講座」、「市民教養講座」を共催実施した。

- ・SDGs 関連として、「キャンパスSDGsびわ湖大会 2021」、「SDGs をテーマとした共同講義」、「FD・SD 研修会」を共催実施した。
- ・琵琶湖東北部地域における地域活性化に向けた事業「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」に、近江楽座から県大ラジオ部、おとくらプロジェクト、スチューデントキュレーターズが参加した。

3 スタッフ紹介

3-1 地域共生センターの体制等 【2021 年度】

センター長（地域連携担当理事）	高橋 滝治郎
教授	鵜飼 修（地域教育プログラム総括、地域共生論、近江楽士（地域学）副専攻、近江環人地域再生学座、近江楽座等）
講師	上田 洋平（地域教育プログラム、地域共生論、近江楽士（地域学）副専攻、近江環人地域再生学座、近江楽座等）
特任准教授	西岡 孝幸（近江楽士（地域学）副専攻、地元就職・起業支援等）
地域連携・研究支援課課長	山中 智栄子（事務総括）
主幹	古澤 朋之（地域連携総括、他大学との連携等）
副主幹（主任調査研究員）	秦 憲志（調査研究、近江楽座、地域教育プログラムの支援等）
主査	森久 友紀子（生涯学習、近江楽座等）
特任職員	谷口 嘉之（SDGs、地域連携等）
職員	小川 利佳（地域課題科目、近江楽士（地域学）副専攻等）
職員	横大路 まゆ（近江環人地域再生学座事務等）
職員	福井 亜矢子（近江環人地域再生学座事務等）
職員	西田 智美（SDGs、地域教育プログラム事務等）
特任職員	杉本 一良（生涯学習事務）
職員	前川 瑛美梨（近江楽座事務）
職員	中山 ゆず香（交流センター管理担当）

○地域共生センター兼務教員		○近江楽座専門委員会（※委員長）	
環境科学部	教授 浦部 美佐子	環境科学部	
同	教授 大久保 卓也	環境生態学科	教授 浦部 美佐子
工学部	教授 乾 義尚	環境政策・計画学科	准教授 林 宰司
同	教授 バラチャンドラン ジャヤデワン	同	講師 平岡 俊一
人間文化学部	教授 印南 比呂志	環境建築デザイン学科	准教授 金子 尚志
同	教授 高梨 克也	同	講師 迫田 正美
人間看護学部	准教授 米田 照美	工学部	
○地域共生論運営委員		機械システム工学科	准教授 河崎 澄
環境科学部		電子システム工学科	教授 柳澤 淳一
環境生態学科	教授 西田 隆義	人間文化学部	
環境政策・計画学科	教授 香川 雄一	地域文化学科	教授 石川 慎治
環境建築デザイン学科	准教授 ヒメス ヘルゲッホ、ホアン ラン	生活デザイン学科	教授 印南 比呂志※
生物資源管理学科	准教授 岩間 憲治	同	講師 佐々木 一泰
工学部		人間関係学科	准教授 原 未来
材料科学科	准教授 加藤 真一郎	人間看護学部	
機械システム工学科	教授 安田 寿彦	人間看護学科	教授 伊丹 君和
電子システム工学科	准教授 坂本 真一		教授 横井 和美
人間文化学部		地域共生センター	
地域文化学科	准教授 櫻井 悟史		教授 鵜飼 修
生活デザイン学科	准教授 山田 歩		
生活栄養学科	講師 桑原 頌治		
人間関係学科	教授 松嶋 秀明		
国際コミュニケーション学科	准教授 橋本 周子		
人間看護学部			
人間看護学科	教授 伊丹 君和		
	准教授 米田 照美		
	講師 関 恵子		
	講師 千田 美紀子		
地域共生センター	教授 鵜飼 修		
	講師 上田 洋平		
	主任調査研究員 秦 憲志		
○SDGs 専門委員会（※委員長）		地域共生センター	センター長 高橋 滝治郎※
環境科学部	准教授 龍 健太郎	環境科学部	准教授 龍 健太郎
工学部	准教授 杉山 裕介	工学部	准教授 杉山 裕介
人間文化学部	准教授 木村 裕	人間文化学部	准教授 木村 裕
人間看護学部	准教授 馬場 文	人間看護学部	准教授 馬場 文
地域共生センター	教授 鵜飼 修	地域共生センター	教授 鵜飼 修
	講師 上田 洋平		講師 上田 洋平
事務局各課職員		事務局各課職員	

3-2 教職員の活動

3-2-1 受賞、著書、論文

- (1) 上田洋平(共著)『場づくりから始める地域づくり』
「ふるさと絵屏風で生みだす心の居場所」(2021年7月)
- (2) 「ミライリポート SDGs 企業に学ぶ③・SDGs と「蝶」の羽ばたき」『信用保証レポート 2021 年夏号』滋賀県信用保証協会 (2021 年7月)
- (3) 上田洋平 「ミライリポート SDGs 企業に学ぶ④・SDGs と「蝶」の羽ばたき」『信用保証レポート 2022 年冬号』滋賀県信用保証協会 (2022 年1月)

3-2-2 学会発表

- (1) 程尾好貴、鶴飼修 空き家対策条例の傾向分析～近畿圏および福井県、三重県の自治体を対象として～日本計画行政学会第44回全国大会報告集 (2021 年11月)
- (2) 秋吉恵、森田恵、奥貫麻貴、秦憲志 大学生の地域活動は地域に何かをもたらし得るのか? : 活動に関わるステークホルダー間の関係性からの考察 国際ボランティア学会 第23回大会 企画セッション[ルーム1] オンライン開催 (2022 年2月19日) 発表要旨集19 共著
- (3) 上田洋平、「びわ湖の過去・現在・未来」農山村はソーシャル・イノベーションの源 日本ソーシャル・イノベーション学会 第3回大会 第1分科会 オンライン開催 (2021 年11月28日)

3-2-3 研究会、講演会、特別講義等での発表

- (1) 鶴飼修 2021.10.12 地域の未来を考える「地域診断」の手法を学ぶ研修会 南郷里まちづくりセンター
- (2) 上田洋平 2021.6.1 主権者教育地域連携セミナー「地域共育から主権者共育へ」 滋賀県教育委員会 オンライン
- (3) 上田洋平 2021.6.16 全国地域リーダー養成塾「地域文化を活かしたまちづくり」 地域活性化センター WASEDA NEO
- (4) 上田洋平 2021.6.22 彦根商工会議所青年部例会『みつけよう! わたしの SDGs』「地域企業と SDGs」 彦根商工会議所
- (5) 上田洋平 2021.7.28 学芸セミナー「ふるさと絵屏風で生みだす心の居場所」 学芸出版 オンライン
- (6) 上田洋平 2021.8.18 高等学校における地域との連携による主権者教育の職員研修会「地域共育から主権者

共育へ」 八日市高等学校

- (7) 上田洋平 2021.10.13 令和3年度若手後継者等未来創造事業「SDGs の使い方・活かし方」東近江市商工会 愛東コミュニティセンター
- (8) 上田洋平 2021.12.18 図書館会館 25 周年記念トークイベント「過去を育てて未来をつくる」 日野町立図書館
- (9) 上田洋平 2022.1.20 木之本ライオンズクラブ例会「SDGs と地域社会」 京岩ダイニング
- (10) 上田洋平 2022.3.13 大石龍門ふるさと絵屏風完成披露会「つくってつかってそだてるふるさと絵屏風」 叶匠寿庵 寿長生の郷
- (11) 上田洋平 2022.3.13 大井川絵本づくりキックオフイベント「過去を育てて未来をつくる」環境省 つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト
- (12) 上田洋平 2022.3.18 K's-tec「SDGs ってなんだろう」社内研修会
- (13) 秦憲志 2021.11.12 滋賀県職員研修「協働を進めるための基礎講座」講師 滋賀県企画部県民活動生活課
- (14) 谷口嘉之 2021.5.26 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 令和3年度第1回アーバンデザインセミナー「草津の未来につなぐ SDGs」
- (15) 谷口嘉之 2021.6.21 滋賀県立男女共同参画センターG-NET しが ユースリーダーセミナー「SDGs を学び、考える」
- (16) 谷口嘉之 2021.7.25 滋賀県立男女共同参画センターG-NET しが「ジェンダー平等子ども会議」
- (17) 谷口嘉之 2021.10.3 彦根市環境保全指導員連絡会議「SDGs に向けた行動の10年」
- (18) 谷口嘉之 2021.11.10 多賀町民生委員・児童委員協議会「SDGs に向けた行動の10年」
- (19) 谷口嘉之 2022.3.14 愛知大学 国研プロジェクト・公開研究会「SDGs・大学・地域」

3-2-4 研究資金・補助金等

- (1) 上田洋平(2021) 寄附講義・彦根商工会議所「世界遺産のまちづくり・人づくり」2021年度 100万円
- (2) 秦憲志(2021) 科学研究費補助金「明治期、戦後成長期、現代の三つの時代を通してみる条里地割の存在形態と価値の顕在化」2021年度 60万円

3-2-5 社会への貢献(各種委員会など)

(1) 鶴飼修(2021) NPO 法人大森まちづくりカフェ
代表理事
(2) 鶴飼修(2021) NPO 法人大牟田・荒尾 炭鉱まちファンクラブ 副理事長
(3) 鶴飼修(2021) 株式会社彦根麦酒 アドバイザー
(4) 鶴飼修(2021) 活水プラント株式会社 アドバイザー
(5) 鶴飼修(2021) 大阪経済大学 非常勤講師
(6) 鶴飼修(2021) 河瀬中学校・高等学校運営協議会委員
(7) 鶴飼修(2021) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム大学連携政策研究事業推進委員会 委員
(8) 鶴飼修(2021) 滋賀県「健康しが」企画運営会議
座長
(9) 鶴飼修(2021) 東近江市わくわく市民活動支援補助金審査委員会 委員長
(10) 鶴飼修(2021) 東近江市コミュニティビジネススタートアップ支援事業選考委員長及びアドバイザー
(11) 鶴飼修(2021) 米原市総合計画審議会 会長
(12) 鶴飼修(2021) 米原市公共施設等総合管理計画検討委員会 委員
(13) 鶴飼修(2021) 長浜市地域経営改革会議 委員
(14) 鶴飼修(2021) 長浜市政「創造と挑戦」の懇話会
会長
(15) 鶴飼修(2021) 長浜市サテライトオフィス等開設支援事業プロポーザル選定委員会 委員長
(16) 鶴飼修(2021) ながはま市民協働センター 地域の未来を考える「地域診断」の手法を学ぶ研修会 講師
(17) 鶴飼修(2021) 豊郷町公営住宅等検討委員会 委員長
(18) 鶴飼修(2021) 多賀町空家等対策協議会 会長
(19) 鶴飼修(2021) 多賀の里づくり魅力化プロジェクト
会議 委員長
(20) 上田洋平(2021) 滋賀県文化審議会委員
(21) 上田洋平(2021) 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター評議会 委員
(22) 上田洋平(2021) 滋賀県マザーレイクゴールズ推進委員会 委員
(23) 上田洋平(2021) 滋賀県立八日市高等学校「高等学校における地域との連携による主権者教育の職員研修」講師
(24) 上田洋平(2021) 滋賀県ふるさと水と土保全対策推進懇話会委員
(25) 上田洋平(2021) 滋賀県立近代美術館協議会委員
(26) 上田洋平(2021) かかわりファクトリー滋賀推進協議会 副会長
(27) 上田洋平(2021) 滋賀県教育委員会未来の担い手を育むキャリア形成支援事業連絡協議会委員

(28) 上田洋平(2021) 滋賀県教育委員会主権者教育地域連携セミナー 講師
(29) 上田洋平(2021) 彦根市文化観光推進協議会委員
(30) 上田洋平(2021) 湖南市ふれあい公園づくり検討委員会 委員
(31) 上田洋平(2020) 湖南市景観審議会 委員
(32) 上田洋平(2021) 愛荘町地域資源アドバイザー
(33) 上田洋平(2021) 同志社大学 ゲスト講師
(34) 上田洋平(2021) 長浜バイオ大学 講演講師
(35) 上田洋平(2021) 国土交通省丹生ダム建設中止に伴う地域整備に関するファシリテーター
(36) 上田洋平(2021) 環境相近畿地方 ESD 支援センター企画運営委員会委員
(37) 上田洋平(2021) 滋賀県「美の滋賀」プロジェクト推進事業にかかる専門評価員
(38) 上田洋平(2021) 滋賀県死生懇話会ファシリテーター
(39) 上田洋平(2021) 彦根市総合計画審議会委員
(40) 上田洋平(2021) 彦根シティプロモーション戦略推進委員会顧問
(41) 上田洋平(2021) 東近江市近江匠人認証制度審査委員会委員
(42) 上田洋平(2021) 湖南市都市計画審議会委員
(43) 上田洋平(2021) 米原市社会教員委員
(44) 上田洋平(2021) 米原市ルッチまちづくり大学チーフコーディネーター
(45) 上田洋平(2021) 高島市協働事業提案審査会審査員
(46) 上田洋平(2021) 彦根商工会議所地域交通研究会メンバー
(47) 上田洋平(2021) 滋賀大学 非常勤講師
(48) 上田洋平(2021) 特定非営利活動法人碧いびわ湖理事
(49) 上田洋平(2021) 認定特定非営利活動法人つどい100JOB 委員会委員長
(50) 西岡孝幸(2021) 滋賀労働局 地域雇用活性化支援アドバイザー
(51) 西岡孝幸(2021) 大津市 地域ビジネス支援アドバイザー
(52) 秦憲志(2021) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員
(53) 秦憲志(2021) 大津市市民活動センター第三者評価委員会委員
(54) 秦憲志(2021) 滋賀県協働プラットフォーム コーディネーター
(55) 秦憲志(2021) 愛荘町みらい創生会議会長
(56) 秦憲志(2021) 特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会理事
(57) 谷口嘉之(2021) 米原市市民活動団体コーディネーター

- (58)谷口嘉之(2021) 第3回 SDGs QUEST みらい甲子園関西エリア大会 実行委員
- (59)谷口嘉之(2021) 滋賀県学習情報提供システム「におねっと」健康懇談会委員
- (60)谷口嘉之(2021) 米原市社会教育委員
- (61)谷口嘉之(2021) 米原市総合計画審議会委員
- (62)谷口嘉之(2021) 米原市自治基本条例推進委員
- (63)谷口嘉之(2021) 米原市市民とともに創る都市公園市民会議委員

3-2-6 マスメディアとの対応

- (1)高橋滝治郎 2022.1.26 県大生に多賀ニンジン配布 JA 企画「厳しい冬乗り越えて」 高橋滝治郎理事、生物資源管理学科1年 大畠由紀さん(18) 滋賀彦根新聞
- (2)鵜飼修 2021.6.11 原料ホップづくり まず第1ステップ 「オール彦根産ビール」へ苗植え 鵜飼修教授、工学部材料科学科1年 安岐桜子さん(19) 中日新聞
- (3)鵜飼修 2021.8.1 荒神山の麓でつくる クラフトビール 彦根麦酒 荒神山醸造所 びわこ新聞
- (4)鵜飼修 2021.10.25 地域を変える 地方で学ぶ 広がるリカレント教育① 朝日新聞
- (5)谷口嘉之 2021.5.19 ジェンダー 若者学ぼう 県、来月セミナー 京都新聞
- (6)上田洋平・谷口嘉之 2021.7.1/10.1/12.1/2022.3.1 FM滋賀開局25周年特別番組「やっぱり滋賀が好き “滋賀をもっと元気に”『SDGs とは?これからの滋賀』」 エフエム滋賀

3-3 2022年度教職員メッセージ

○鶴飼修

コロナ禍の影響が拭えない中での1年でした。授業の実施にあたっては、幸い大学院「近江環人地域再生学座」で培ってきたノウハウが活用でき、スタッフの皆さんの協力で、学部の授業でもオンライン・オンデマンド対応の授業が可能であることを確認することができました。一方で、課外活動では活動制限の影響で、長年活動してきた団体を解散せざるを得ないものもあり、新たな体制の構築を検討することとなりました。そうした中でも、コロナ禍での1年半の議論の成果を活かした地域活性化の活動を新たに創出できたことは、貴重な経験となりました。「トラブルをエネルギーに」故 延藤安弘先生からいただいた言葉を胸に乗り越えることができた1年でした。

○上田洋平

昨年度の全面オンラインあるいは全面オンデマンドによる授業もそれなりに変化だったが、先が見えないなか、「コロナ」の出方をにらみながらの一進一退の対応は、また別の意味で苦勞の多いものであった。地域連携の最前線、アクティブラーニング型の教育の場は基本想定外の連続で、毎日が危機対応といっても良いような場であるとはいえ、一つひとつの科目についてA・B・C最低3つの実施プランを準備したうえで、ギリギリまで状況判断を重ね、決断し、最適な学習環境を提供していかないといけない。オンデマンドとオンラインと対面の3形態を組み合わせて行うハイブリッド型授業を、しかも地域の方を招いて実施するというようなミッションは、いずれか一つを一斉に行う場合よりも、格段に工程が複雑で難易度が高いものであった。しかしやってみると意外にできるもので、しかもハイブリッドであればこそ試みられること、生み出せる成果もいくつかあった。社会の在り方も教育についてもこれまでのような「わけて・あつめて・しばる」からこれからは「まぜて・ちらして・つなぐ」へとシフトするべしと日々提唱している身としては、これも一つのレッスンであり、得るものも大きかった。ただやはり、多くの人の命と健康が危機にさらされる状況は何とか終息してほしいと切に願う。

コロナ禍の困難な状況の中でも、いくつかの学生チームは工夫しながら地域での活動を続けている。もちろんそれは地域の大いなる理解があつてのことであるが、学生たちのこれまでの地道で真摯な取り組みが人々の信頼を勝ち得ていたからこそ、この困難な状況下でなお学生たちの活動や学びが理解され受け入れられているものと思う。

引き続き多種多様な委員会や講演にご用命頂いた。

「あるく・みる・きく」フィールドワークに出られる機会がコロナ禍もあっていよいよ制限されるなか、私にとってはこうした場も一つのフィールドワークの機会となって、いろいろな勉強をさせて頂いた。一方、さまざまな方からご期待も頂き、また親身なアドバイスも頂きながら、書く方の成果は一向前に進まず忸怩たる思いである。

○西岡孝幸

ソーシャル・アントレプレナー（SE）コース担当の西岡です。

SEコースは2016年度に設置しましたが、新たに起業家教育に重点を置いたコースに改編してから、ようやく1年半を終えました。

SEコースは初級コース（「ソーシャル・ビジネス概論」、「MBA入門」）と上級コース（「ビジネス・プランニング」、「地域デザインD」）に分かれています。初級コースは起業家精神の醸成を目的に、上級コースは起業家育成を目的としています。

上級コースの受講生の中には起業準備に入ったものもいます。しかし、多くの学生は初級コースの受講で終わるケースも多く、今後は初級から上級コースへ流れる学生を増やすべく工夫が必要だと感じています。私は大学での講義のほか縁あって、大津市の「ビジネス支援アドバイザー」や労働局の地域アドバイザー、創業サポートネットワークなどで活動することが多くあります。それらの活動を通じ、地域の課題や企業の現状などに触れることが多いので、それらの知識・経験を講義に生かしています。

○山中智栄子

地域連携・研究支援課は交流センター、地域共生センター、産学連携センター、研究推進室で構成されています。名前からそれぞれの役割は連想していただけるかと思います。このなかで学生さんに馴染みがあるのは交流センターですね。ホールや研修室の貸出しや近江楽座の事務局を担っているため、事務室に行ったことあるという学生さんも少なくないでしょう。また、今年に入ってからピアノシモ内にサンクスカードを設置して食料品や日用品を提供もしていますので、一度覗いてみてくださいね。

でも、誰にも気づいてもらえないけれど、食糧支援時のお米の袋詰めや最近では生物資源管理学科から提供いただいた小麦の製粉まで各センターの職員が協力して行っているんです。支援品を料理したときには職員の頑張りを思って、美味しくいただいてくださいね。

○古澤朋之

2021 年度から地域連携・研究支援課でSDGs、地域との連携や包括協定等の業務に携わっています。

本学は「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」ことをモットーに地域貢献活動に取り組んでいます。大学が持つ知を地域に還元する、地域で実践することが求められている時代において、県立大学ならではの「地域とのつながりと地域の信頼」は、大学間競争の時代においても、本学の大きな強みになると考えています。地域の総合大学として、地球規模で考え、地域で行動することを意識して取り組んでいます。

滋賀県立大学の地域活動にご協力をお願いします。

○秦憲志

令和3年度の活動を振り返って、新型コロナウイルスの影響とその関係で比重が大きかった3点をあげる。

一つ目は「地域共生論」の授業。教室を分散して3人の教員が役割分担し、各学部教員や運営スタッフ、学生サポーターと連携して、対面で、オンライン、オンデマンドにも対応しながら、すべてのコマをやりきることができた。私自身としては、ひとつの教室の準備をし、円滑に授業が進められるよう運営する責任があり、また毎回のレポート採点に精力を傾けた。体調管理には気をつけていたが、一度、家族の体調悪化というアクシデントがあり、同僚に助けってもらって何とか乗り切ることができた。ありがたかった。

二つ目は近江楽座の運営。詳細は別稿にとりまとめたが、コロナに翻弄されながらも学生たちがすばらしい成果を上げ、また多くの新たな取組を実践している。一方で、コロナで充分できていない体験の共有や継承、地域との関わりの中から活動の楽しさ、やりがい、魅力を思いっきり味わえることが課題になっていると思われ、そういう面の支援にこれから力を入れていきたい。そのためには、大学・学生側だけでなく、コロナの影響を大きく受けている地域側の動向にも気を配る必要がある。年度末のプロジェクトの活動実績報告書で、あるチームの代表学生が次のことを指摘している。

「現在、町との関係性が薄れている。時が過ぎるごとにまちの人たちの求めるものは変わっているはずなのに私たちの行動は10数年特に大きな変化をしていない。(中略)地域に入る学生団体はプロジェクトを引き継いでいくことの重要性よりもまちの人との関わりを引き継いでいけるような在り方を目指すべきであるように感じる。」近江楽座の原点として、心にとめておきたい。

三つ目は、二つ目とも関係するが前年度からオンラインで議論を行ってきた「学生が参画する地域活性化研

究会」の一定の方向性が見い出せたこと。今後、共同でさらに研究を進めていきたい。

○森久友紀子

地域連携・産学連携を担当しています。平成8年度前期に34科目でスタートした公開講義は、令和元年度には約90科目を公開しており、さまざまな分野の講義を受講することができます。今後も生涯学習事業を通じ、地域の方々が「ここに滋賀県立大学があつてよかったな」と感じていただけるような講義・講座を提供していきたいと思っています。

○杉本一良

令和3年度から「公開講義」と「公開講座」に関する業務を担当しています。これらの事業は、本学の基本理念の中にある「開かれた大学としての生涯学習の提供」に関わって、本学開学2年目の平成8年度から実施されているものです。

「公開講義」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から長期間中止となっており、再開についての問い合わせも多数いただいております。令和4年度前期にようやくオンデマンド方式で2科目、後期もオンデマンド方式2科目に加え一部の科目を対面方式で公開することになりました。

また「公開講座」につきましても、令和2年度春期に予定をしていたが急遽中止となった4つの講座を、令和3年度春期にオンデマンド方式で限定配信し多くの方に視聴していただきました。令和4年度も前年度同様に各学部から推薦していただいた4名の講師による講座をオンデマンド方式で限定配信しました。

今後も皆様の意見をお聞きしながら、より充実した講座の提供ができるように更に工夫を重ねていきたいと考えております。

○杉田弘一

令和4年度より「近江楽座」の事務局員として、主に学生のチーム活動のサポートや広報、運営業務を担当しています。こちらにお世話になるまでの約37年間は県内企業に勤務し、内3年間は「近江商人」の叡智を事業経営やまちづくりに活用しようとする県の事業に携わりました。

ところで、2001年に同事業で近江商人の三方よしの理念を具現化したビジネスプランを考えてもらおうと高校生、大学生を対象のコンペを行いました。大学生の部には、全国から42チームのエントリーがあり、見事最優秀賞を受賞したのが滋賀県立大学のチームでした。その内容は彦根市の中心市街地の活性化策を提案したもので、審査委員からは商店街での新たな人間関係の構築が高く評価され、先生方の丁寧な指導も受賞につながっ

たとのコメントがありました。

当時、私は受賞されたとのチームも事業計画はすばらしいが、これを実践するのは難しいのではと考えていたのですが、今本学で20以上もの「近江楽座」のチームが、様々な社会問題の解決に向けた地域貢献活動を長年続けていることを知り、本当に驚かされました。学生たちは授業だけでなく他の活動にも忙しい中、地域に出向きいろいろな方々と交流し活動しています。先生方からはアドバイスだけでなく、時には厳しい指摘も受けており、このプログラムには密度の濃い近江（滋賀県）独自の学びがあると思います。

まだまだ最新デジタルツールに慣れない異世界からの転入者ですが、ビジネスや投資、子供の進学や就活等を少しばかり経験したものとして、微力ですがお手伝いができたらと考えております。

○中山ゆず香

大学サテライト・プラザ彦根の事務局と交流センターの管理を担当しております。令和4年3月末日をもってサテライト・プラザ彦根は閉鎖となりました。閉鎖にあたり今までサテライト・プラザをご利用頂いていた地域の方、企業、学生と様々な方とお話をする機会がありました。皆さんがサテライトという場を通して、交流を深めてこられた事を知り感慨深いものがありました。また過去の資料を整理しながら、年に一度行っていた「特別講演会」を毎年楽しみに待っておられた方がおられた事は講演会を企画するにあたり大変励みになりました。

交流センターピアニシモ内に持続的な食品ロス削減と学生支援への取り組みのためのTHANKs CARTが設置されました。昼休みにピアニシモを訪れると、学生が真剣な眼差しでカートを見つめている姿に立ち会う事があります。立ち止まって話をしてみると、学生生活や実家の話、実は病気を患っている話など様々な話をしてくれる学生の姿があります。コロナ渦になり人と接する機会が減った学生にとってTHANKsCARTを通して、もう一度人との繋がりを感じてくれる温かい場所になればと思っています。

○谷口嘉之

地域共生センターで地域連携業務を担当しております谷口嘉之と申します。地域の方々から大学への様々なお問合せの対応や、逆に本学から授業やイベントなどで地域の方々にご協力いただきたいことがある場合の調整などを行っています。そのため私の名刺には「地域連携コーディネーター」という肩書が入っていますが、これをご覧になった多くの方から「この『地域連携コーディネーター』って、どんな仕事なんですか？」と質問を受けることが良くあります。そこで上記のような説明をして、なんとかご理解いただくのですが、このようなときに、

大学の地域連携コーディネーターという仕事や大学と地域の連携の取組みについてはまだまだ知られていないと感じています。

大学が教育や研究の成果を社会に還元し、その発展に寄与するという役割は、2006年から2007年にかけての教育基本法、学校教育法の改正時に新たに条文に加えられたもので、意外と最近のことです。また大学に「地域連携コーディネーター」やそれに類する肩書の人が増えたのは2013年頃からです。大学と地域の連携を推進する事業が本格的に始まった時期に重なります。このように比較的歴史が浅く、一気に多様な人材が採用された「地域連携コーディネーター」という存在が果たすべき役割や価値観についても考えが様々で、まとまっていないのが現状かと思っています。

そのような状況の中、私も地域連携コーディネーターの仕事にどう向き合っていけば良いのか迷っていた時期があり、2021年4月から本学の大学院・環境科学研究科に籍をおいて、地域連携コーディネーターの志向と行動様式に関する研究に取り組むことにしました。地域連携コーディネーターはどのように考え、行動することで、より良い地域と大学の連携を実現することができるのかを明らかにしていければと考えています。現在、全国の大学の地域連携業務を担当されている方々にもお話を伺ったり、アンケートにお答えいただいたりしながら研究を進めています。またその成果を何らかの形で発表させていただき、今後の地域連携に役立てていければと考えております。皆さま、今後ともよろしくお願いいたします。

○小川利佳

地域基礎科目・地域学副専攻の教科に携わり、10年目となりました。主に講義補助などが職務となります。講義内でのビジネスゲームやグループワークにおいて毎年、学生の柔軟な意見や行動に驚かされることが多いのですが、本年度は特にコミュニケーションやリーダーシップなどの能力が高い受講生が多かったように感じました。

オンデマンドやオンラインの講義を通して、どうすれば遠隔の講義でも対面の講義と同じような他者との関係を作り上げることが出来るのか、学生たちが自ら悩み考え、導き出した答えが本年度に生かされたのではないかと考えています。学生たちに教えられ、まだまだ自分も学べるのだと感動すら覚えた一年でした。新型コロナウイルス感染症の拡大は、未だ収束の兆しが見えません。学生たちには制限ばかりの、苦しい時間が続いています。

それでも大学生活は楽しかったと、大きな学びがあったと言ってもらえるように、私自身も日々模索していきたいと思います。

○横大路まゆ

地域共生センターの事務局として2年目となりました。主に近江環人地域再生学座に関する業務に携わっています。昨年末から育児休暇をいただき、この夏業務に復帰しました。

育児休暇中は子育てで外に出る機会が作れませんでした。最近では育児も少し落ち着き、外に出る機会が増えました。先日、卒業生が行っているまちづくり活動のひとつである給食弁当を子どもを連れて買いに行きました。美味しいお弁当に子どもは大喜び。私自身は豊かな自然に癒され、身近にこんな素敵なまちや土地に根付いた文化があることに気付かされました。そういったまちづくり活動はSNS上で多く発信されています。以前までは気にも留めていませんでしたが、近江環人の授業を担当してからは、目に留まるようになり足を運ぶ機会が増えました。実際に体験をすることで、活動の素晴らしさを感じる反面、活動を継続するために必要な様々な課題にも気が付きました。しかし、自分の子どもが目を輝かせて活動に参加している姿を見て、地域おこしの意義を強く感じています。

近江環人の講義はまちづくり活動を広げていく人材を育成する目的があります。受講生もそれぞれの目標に向けて学んでおられます。私はまちづくり活動に参加したことで、近江環人の受講生をお手伝いできる今の仕事によりやりがいを感じるようになりました。これからも自らも興味をもち、学びが実りあるものとなるようにサポートしていきたいです。

○西田智美

昨年度は勤務1年目ということもあり、目の前の仕事の流れについていくのが必死という感じで過ぎていきました。今は少し落ち着き、学生と関わる機会も増えて日々刺激をもらっています。そんな中、私が事務局を担当している「地域共生論」を受講した1年生の学生から話を聞く機会がありました。前期の授業を終えて迎えた夏休み。久しぶりに高校時代の友人と集まった際に、それぞれの大学の様子を話していたそうです。大学によっては、1年生の授業はほとんどオンラインのままで、友達をつくるのにも苦労するとのこと。そんな中で、県大では1年生全員が学部学科の枠を超えて、対面でグループワークに取り組む地域共生論という授業があると伝えたところ、ものすごく羨ましいと言われたそうです。もともとコミュニケーション力の育成に重点を置いた科目として位置づけられていましたが、その重要性は一層大きくなっているのだと感じました。そして私自身、県大ならではの学びの場に携われていることを、学生のフィードバックから教えてもらいました。



滋賀県立大学SDGs宣言

- S 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G グローカルな思考と実践をもって
- s 世界と地域の発展に貢献します

公立大学法人 滋賀県立大学
地域共生センター 年報2021

令和5年2月 発行
公立大学法人 滋賀県立大学 地域共生センター

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-9851 FAX 0749-28-0220
E-mail chiiki_koken@office.usp.ac.jp
HP <http://ccdp.usp.ac.jp>